文学部へようこそ

2017

大東文化大学文学部
新入生サブテキスト

大東文化大学文学部
新入生サブテキスト

文学部へようこそ

文学部

教育研究上の目的

文学部は、人間の生き方やあり方を考究する総合的な人間学としての文学をはじめとする人文諸科学に関する学識を修めることを通して、多様な現代社会に対応できる能力ならびに国際社会に対する広い識見と深い洞察力を有する人材の養成を目的としています。

ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

文学部は、所定の単位を取得し、以下のような能力を備えていると認められる学生に卒業を認定し、学士（日本文学・中国文学・英米文学・教育学・書道学）の学位を授与します。

1．人文諸科学に関する学識を修め、人間や世界に対する柔軟な想像力と洞察力を持つことができる。
2．各学科で学んだそれぞれの専門性を生かし、社会において真摯に課題に取り組み、解決しようと努力することができる。
3．国際社会に対する広い識見をもとに、周囲と力を合わせ、未来を創造していく過程に参与することができる。

カリキュラムポリシー（教育課程編成の方針）

文学部では、ディプロマポリシーを踏まえて、以下のようなカリキュラム編成を行っています。

1．最初に、多様な現代社会に対応できるように、学部・学科を越えた全学共通科目として自然・社会・人文諸科学の各科目を学ぶ。さらに基礎教育科目としての外国語科目・情報処理科目等、また、キャリア・ジェンダー・芸術（創作を含む）といった現代社会において必須とされる諸科目を学び、各専門科目への基礎を築く。
2．次に、日本文学科・中国文学科・英米文学科・教育学科・書道学科の５学科それぞれの基礎科目と専門科目を学ぶ。それらは各学科において体系的にカリキュラムが組まれている。
3．各学科においては、少人数制のゼミや実践研究における課題に取り組むことによって、資料・情報の分析・読解能力、批評能力、自己表現能力、コミュニケーション能力、創造的実践能力の育成が目指されている。
4．さらに各学科において、卒業論文や卒業制作、研究テーマへの総合的取り組みが、個別的指導のもとに行われる。

目　次

大東文化大学文学部で学ぶということは？…… 05
文学とは何か？…… 09
◆コラム◆東松山を知ろう！① …… 11
レポートの書き方について…… 13
◆コラム◆各分野の基本的な辞典・事典の一覧 …… 18
図書館に行こう！…… 21
◆コラム◆教員の薦める本① …… 23
インターネットの活用法・活用の仕方…… 25
◆コラム◆卒業論文・卒業制作の題目一覧 …… 27
キャリアについて…… 29
◆コラム◆東松山を知ろう！② …… 31
美術館・博物館・史跡に行こう…… 33
◆コラム◆東松山を知ろう！③ …… 36
本屋さんに行こう…… 37
◆コラム◆教員の薦める本② …… 39
映画を観よう…… 41
◆コラム◆これだけは知っておきたい作品 …… 46
芝居を観よう…… 47
留学に挑戦しよう！…… 51
◆コラム◆長距離通学を楽しもう …… 54
話し方・書き方…… 61

イラスト　山口謠司

大東文化大学文学部で学ぶということは？

文学部長　河内利治

新入生のみなさん！

みなさん一人ひとりの入学を、大東文化大学文学部の教職員一同、心から祝福し、歓迎します。

これからみなさんは４年間、文学部の学生として多くの「知識」や「技術」を習得し、様々な体験を通して、大きく成長されていくことでしょう。そして習得し、体験したそれぞれの専門の知識と技術を活かして、社会で活躍しようと夢と希望に胸を膨らませていることでしょう。本書は、みなさん自身の夢と希望を実現していくために、様々な場面で役立つ情報をたくさん集めてみました。バラエティーに富んでいますので、ぜひ好きな所らから読んで、サブテキストとして活用してください。

文学部の歴史

まず、みなさんの大学と学部について紹介しましょう！

大東文化大学の前身は、「大東文化学院」です。1923年（大正12年）、国費をもって創立されました。文学部の歴史は、この大東文化学院から始まりました。時に「国漢」すなわち現在の日本文学科と中国文学科が開設されました。この二学科は本学で一番歴史があり伝統がある学科です。

戦後、1953年（昭和28年）「大東文化大学」へ校名変更し、1962年（昭和37年）に文政学部を分けて、文学部（日本文学科・中国文学科）経済学部（経済学科）の２学部３学科になりました。

さらに文学部は、1967年英米文学科、1972年教育学科、2000年書道学科を開設し、現在では５学科を擁し、全８学部19学科中、随一の伝統と規模を誇る学部です。（文学部2015年度在籍者2475人／2016年３月22日卒業生620人）

現在文学部は、古今東西の言葉（文字）で綴られた文学作品について学習する（日文・中文・英米）、それら文学作品を手書きした書道作品について学び・書く（書道）、幼稚園・保育・小中高校の教科・教育指導について学習する（教育）の各学科に分かれて、深く専門的に研究できる「学び問う」総合学部になっています。

これまで大東文化大学文学部は、いわゆる人文科学系&教員養成系の総合学部として、様々な人材を輩出してきました。みなさんの先輩方には、日本社会のみならず世界各国の第一線で活躍されている方がたくさんいらっしゃいます。というのも、大学そのものが「文化」人を育成する大学だからなのです。

「文化」という言葉は、文化人類学・社会学では、「生活様式の全体」を指します。また「ある集団が共有するもの」の意味にも使います。日本人、中国人、韓国人、フィリピン人、スリランカ人、フランス人、アメリカ人、さらには関西人、セレブ層、若者などが、それぞれの集団の中でみんながもっているものだとされるのです。一国の中の集団で、関西人、セレブ層、若者などのもつ文化を、ひとつの大きな文化の中の一部をなす文化という意味で、サブ・カルチャーと呼びます。そしてこのサブ・

カルチャーは、「世代から世代へと受け継がれるもの」だとされています。つまり、文化とは、ある国や層、地方の人たちなどの集団が共有し、親から子へと伝えられて行くような、生活の仕方すべて――だというわけです（近藤正臣著『通訳とは何か――異文化とのコミュニケーションのために』生活書院／ 2015参照）。

大東大生、文学部生、日本文学科生・中国文学科生・英米文学科生・教育学科生・書道学科生、すべてそれぞれの集団において、親から子へのように、先生から学生へ、また先輩から後輩へと、大東の「文化」を伝えてきました。今日からみなさんも、生活の仕方を共有する大東「文化」人の継承者なのです。

「学び問う」こと

みなさんは、日本語で文章を書き、言葉は日本語を話しています。文章を書くための文字は、約2000年前に漢字を中国から輸入し、平安時代に創造された平仮名と片仮名を使用しているのです。当時から筆でこれらの文字を手書きし、作品として読み継がれ鑑賞されてきました。現代では「書く（手書き）」から「打つ（印刷）」に急激に変化していますが、書くという行為は、「人」としての原点かも知れません。

日本近代の幕開け、明治初めの文明開化期には、英語を中心とするヨーロッパの言葉が漢語に置き換えられて、数多く日本語に移植されました。たとえば、literature は「文学」、philosophy は「哲学」、art は「美術」、economy は「経済」に翻訳されました。「文学」は漢字文化圏のバイブル『論語』にも用例のある古典漢語を利用した翻訳語であり、元来は学問（学び問う）の意なのです。「経済」は江戸時代に貨幣が流通し、古典漢語の「経世済民」という言葉を利用してから翻訳語として用いました。「美術」「哲学」は日本人が新たに工夫した新造語です。その後、「文学」「経済」「哲学」「美術」はそのまま漢語の本家である中国にも逆輸入され、今日に至るまで日本語と同様の意味で用いられています（興膳宏著『仏教漢語50話』岩波新書／ 2011参照）。

つまり日本語の中の漢語は、（１）「文学」など日本古来の言葉、（２）「経済」など古代から近世にかけて移植した漢語を中心とするアジアの言語と一部の欧米語、（３）「美術」「哲学」など近代および戦後に輸入された欧米語に大きく分けられ、表記されることが多いということです。また江戸時代までは「文学」を学問の意味でとらえ、literature を指すようになったのが明治以降だということです。

大東文化大学文学部では、主として印刷された文学作品または手で書かれた書道作品を学びます。そのためのカリキュラムが各学科とも多種多様に用意されていますので、日本語・漢語・英語で綴られた作品を読みとくための知識と技術を「学び問い」ながら、自身の才能を磨いて行きましょう。

学びのゆくえ

アメリカのデトロイトで元コンサルタントとして1000社、8000人以上のビジネスパーソンを観察し、『「仕事ができるやつ」になる最短の道』（日本実業出版社／2015）を書いた安達裕哉氏によれば、「うまく仕事に適応して、活躍する人」には、５つの共通項があるそうです。

１「知識」より「学ぶ能力」を重視している
２「上司」より「顧客」を重視している
３「主観」より「客観」を重視している

4「自分の知恵」より「集団の知恵」を重視している

5　体力がある

「伸びる若手」は、以上の特性を持ち合わせた人物で、「柔軟で、体力のある人」と言えるようです。周りに合わせて自分の能力、意見、態度などを向上、変化させることができる人、そして、その変化のために粘り強く仕事を続ける人だそうです。この5つは、世界中で「仕事ができるやつ」「伸びる若手」に共通する項目として紹介されていますが、みなさんがキャリアを形成していく時に求められる人物像とも考えられます。特に1つめの「知識」より「学ぶ能力」を重視している学生、5つめの体力がある学生は、学んだ知識をしっかりと自分のものにするために「能力を向上させる能力」を重視し、磨きをかけるよう努力する、その体力を備えていると思います。

上記の書物に次のような例がありました。みなさんは次のどちらのタイプでしょう？

分からないから「やめる」／分からないから「やる」

「インプット」が先／「アウトプット」が先

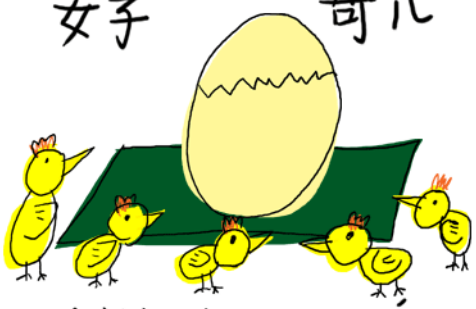
たとえば、外国語の勉強をする際に、「インプット」を先にする人は、発音、単語、文法、言い回しの勉強などを先にします。そして、ある程度それが頭に入ったところで、次に「実際にネイティブスピーカーと話す」という順番になります。「アウトプット」を先にする人は、「ネイティブスピーカーと、とりあえず身振り手振りでもいいから話してしまう」が先です。数学も同じで、「インプット」型は教科書を理解してから問題集を解く。「アウトプット」型は先に問題集を解き始め、そのあとで分からなかったところを学習するという順番です。多くの人が「インプット」から始める要因は、おそらく「学校の勉強」での体験にあります。しかし「インプット」が先の場合、デメリットも多く、「習っていないからできません」「分からないからやりません」という言い訳が許されてしまいます。ですが、本来「きちんと習えること」など非常に少なく、とくに社会に出ると、予習できないことの方がはるかに多いのです。「習ったことがなく、勉強したこともないので、できません」は、仕事のなかでは許されないことも多いのです。ですから、「仕事のできる人たち」は「アウトプット」中心のスキルアップの仕方を身につけているそうです。

みなさん一人ひとりが、公務員、教職員、一般企業への就職、大学院への進学や留学など、将来への夢と希望を抱き続けるなかで、どのような道に進むかが分かれて行きます。その夢を実現するためには、しっかりと、焦らず、授業を通して「学び問う」ことを繰り返して下さい。みなさんは大東「文化」人です。授業を中心に、クラブ活動、ボランティアなど様々な場面で「先輩から後輩へと受け継がれるもの」を培っていって下さい。そうすれば「文学部で学んだこと」がきっと社会で役立ちます。

文学部は、伝統・古典・教養を重視していますので、何よりも専門の「知識」と「技術」を習得することが大切です。そして「学び問い」ながら習得した知識と技術に磨きをかけ、人間性を高めるためにも、日々の学習や体験のなかで、分からないから「やる」、「アウトプット」が先の「伸びる若手」をめざしてみましょう。

抑えることできぬ

女子　奇心



CURiosité

文学とは何か？

生のいとなみと一体化していること

ひとり机に向かっているときも、電車で中吊り広告を見つめているときも、休み時間の教室で友人とお喋りをしているときも、私たちは刻一刻と何かを感じ、何かを考えながら生きています。文学はそうした浮かんでは消える思考と感情の動きに深く関わるいとなみです。生きることそのものと一体化した関係にあると言っても過言ではありません。

文学は実生活では役に立たないという、まことに荒っぽい通念があります。マーケットの利潤の競争というレベルで見れば、たしかに文学はとりたてて多くの収益を生むものではないかもしれません。しかし、文学表現のフィールドはさまざまな感情の揺れや思考の動きとともにある〈生〉の現況に直結しているわけですから、役に立たないという決めつけ方は、一面的な見方にすぎません。

文学はそもそも〈役に立つ／役に立たない〉といったような二分法による問題設定の有効性を疑うものなのです。「そんな単純な考え方こそ、非現実で空疎なものじゃないの？」と、問題の立て方の前提にこそ疑いの視線を投げかけるのです。

文学は人間の〈生〉の具体的な局面を寄り添いながら、その深みに下り、ときに未知の感情や思考を察知します。フィクションつまり虚構の言語の仕掛けによって、新たな現実をつきつけ、人間存在への豊かな洞察を誘うのです。

たとえば、ある作品で次のような言葉に出会ったとします。

「世界の涙の総量は一定なのさ。だから、誰か一人が泣きだすたびに、どこかで別の誰かが泣き止むんだ。同じことは笑いにも当てはまるよ。」

どうでしょう、ぐらりと気持ちが揺れませんか。ノーベル文学賞を受賞したアイルランド生まれの文学者サミュエル・ベケットの劇作『ゴドーを待ちながら』で、登場人物の一人がつぶやく台詞です。この言葉にふれる前と後では、私たちの幸不幸の考え方に明らかに変化が生ずるのではないでしょうか。もし今あなたが悲しみに沈んでいる状態にあるとすれば、この世界の誰かのところにあった涙がたまたま自分のところに集まっているにすぎず、そのことによってその人の悲しみや苦しみをひそかに和らげていることになるのです。人助けをしていると言ってもいい。もちろん、逆の喜びの総量に関しても同じことが言えます。涙も笑いも実は私たちすべてのものが、ともに分かち合っているにちがいないのです。

この「世界の涙の総量は一定量」という発想は文学の言葉によってこそ探り当てられ、文学的想像力によってはじめて表現され得るものです。このように文学は私たちの折々の〈生〉の現実に新たな光を当てると言えるでしょう。

文学的想像力の働き

文学は人間の精神活動でもっとも重要な想像力（イマジネーション）の働きと不可分のものですが、

この文学的想像力を別な視点から考えてみましょう。太宰治の中期の小説「富嶽百景」に、富士山をめぐり次のような話が出てきます。

太宰と思われる主人公は、山梨県の御坂峠の茶屋に滞在しています。富士山見物の名所です。ところが、彼はそこからの富士山はあまりに注文どおりで、好かないばかりか軽蔑さえしています。ある日、川口局に留め置きになっている郵便物を取りに行った帰りのバスで、たまたま隣合った老婦人が、なぜか富士山の見えない崖のほうばかり見つめています。富士のような俗な山を見たくない主人公は、いたくその姿に共感するのです。すると、おばあさんは独り言で「おや、月見草」とつぶやきます。その後に続くのは、とてもよく知られた文章です。

「三七七八メートルの富士の山と、立派に相対峙し、みじんもゆるがず、なんと言うのか、金剛力草とでも言いたいくらい、けなげにすっくと立っていたあの月見草はよかった。富士には、月見草がよく似合う。」

主人公はそれまで、富士山を凡庸な山だと思って少しも感心していませんでした。ところが、おばあさんの一言をきっかけに月見草を発見したとたんに、富士の美しさに気づいたのです。つまり、月見草を介して、あるいは月見草との対比によって、富士の美しさ、雄大さに出会ったわけです。こうした二重視点によって生まれる新たな関係の場が、イメージに喚起力を呼び込みます。大と小、雄大さと可憐さ、遠景と近景といった対比性が隠れていたかもしれません。一つのものだけをいくら見つめても気づかないことが、それと「立派に相対峙」する何かとの関係のコンテキストの発見によって、認識の転換が起こるのです。

富士山を、思い切って私たちの人生に置き換えてみます。日々過ごしている生活に手応えがなく、その奥行や深さにふだんはあまり自覚的になれません。日常生活はいわば富士山です。でも、もしかしたら、私たちの人生において、月見草に相当する何かがあるかもしれないのです。それを発見したとたんに、私たちの日常がいかに深みのあるものか、その雄大な姿が見えてくるでしょう。

文学の仕事とは、言うならば「月見草」の発見のヒントを提示することです。ふだんは眠っていて、気がつかないことが、ある対比的なものの発見によって新たな認識の地平をひらく。もちろん、ジャンルごと、作品ごとに表現方法は異なりますが、じっくり読み進めていけば、一作ごとに「富士」と「月見草」を発見できるにちがいありません。二つのものを結ぶ力です。これはかぎりなく愛の力に近いものではないかとも感じられてきます。

難しいことではありません。私たちが生きていくなかで、何かを感じ、何かを考えることに自覚的である限り可能なはずです。一見すると凡庸に見えるものが、実はそれこそが大きな意味を潜在させています。それだからこそ、文学は私たちの生の全領域に深く関与し、その多彩な言葉を通して私たちを根源から鍛えるのです（参考・中村邦生著『はじめての文学講義』〈岩波ジュニア新書〉）。

（中村邦生／日本文学科）

◆コラム◆
東松山を知ろう！①

吉見百穴

クマムシという緩速動物は苔のなかに住むという。

緑色の苔は触るとふかふかとして気持ちいい。雨上がりにお日様が当たるとキラキラと光る。

クマムシは、そんな苔のなかでモゾモゾとして生きている。

さて、吉見の百穴に住むクマムシは、幸せである。

夜になると、この吉見の百穴にある苔は、光るのだ。「ヒカリゴケ」といい、国の天然記念物に指定されている。

吉見の百穴は、東松山から鴻巣へ行く中間のところにある。

是非、時間があるときに、ここまで足を伸ばしてみるといい。その光景に、たぶん、驚くだろう。茶色の山肌に古墳時代後期（６～７世紀）の墓穴がなんと二百以上も掘られているのだ。

そして、運がよければ、テレビの撮影現場を見ることができるかもしれない。

ここは仮面ライダーやウルトラマンなどの時代から、悪の秘密結社の基地としてヒーローものの戦いの場としても使われて来ている。

岩殿観音　正法寺

東松山校舎の８号館脇フェンスの向こうに細い道が延びている。守衛の人に御願いをすれば、その細道への門を開けてくれる。

細道を上がっていくと山路になるから、ハイヒールでは行かない方がいい。それから雨降りや雨上がりも避けた方がいい。

ところで、山路を上って下ると、コンクリートのトンネルがある。

トンネルを抜けると、板東三十三か所の十番札所、正法寺である。

なんと、奈良時代、養老２（718）年の開山、本尊の千手観音は室町時代のものとされる。

ここには三つの楽しみがある。

ひとつは、６月頃に行くと、紫陽花がとっても綺麗なことである。そして、秋には銀杏が美しい。

三つ目は、本殿観音堂の回廊の下にいる蟻地獄を釣って遊べること。細い木の枝を、蟻地獄が作った巣穴にそろりと差し込むと、蟻地獄が釣れる！

蟻地獄は、ウスバカゲロウの幼虫である。

蟻地獄釣りの後は、できれば、長い長い石段を降りて、昔の参道を歩いてみるといい。夏には蝉の声が汗とともにアスファルトに染みる。

（山口謡司／中国文学科）

iogius

レポートの書き方について

はじめに

レポートの書き方については、専門分野や課題の内容により様々なスタイルがあります。以下は、あくまでも人文・社会科学分野における一般的なレポートの書き方ですが、個々の先生から皆さんにレポート課題が出された際に、併せて書き方に関する指示がある場合には、もちろんその内容を優先して下さい。

「感想文」ではないレポート

さて、レポートとは、文章の形式上からは、詩・短歌・俳句（「韻文」）とは異なり、小説や随筆と同じ「散文」に分類される「論説文」です。「論説」とは『広辞苑』によれば、「事物の理非を論じたり説明したりすること」です。後で詳しく述べますが、小学校以来皆さんがなじんできた「感想文」ではないことだけは、まず認識しておいていただきたいと思います。

新聞を読み「論説文」に慣れよう

その「論説文」ですが、これを書くためには、日頃から「論説文」に親しみ（繰り返し読んで）、その文体に慣れ、構成の立て方等を学んでおくことが大変重要です。そのためには、もちろん論文集や雑誌に掲載されている論文を読むことが一番勉強になるわけですが、１年生の皆さんをはじめとして、なかなかこうした論文には手を出し難いのが実際ではないかと思います。そこで皆さんには、日頃から新聞を読む機会を持つことをお勧めしたいと思います。

朝刊各紙には､様々な問題に対する各新聞社の見解を主張した「社説」が掲載されています。また、各紙の第１面の下部には、例えば朝日新聞の『天声人語』のような短い論説文も掲載されています。この他､新刊書籍を評論した書評面もあります。さらに各紙の夕刊には文化面と呼ばれる紙面もあり、様々な演劇・音楽会等に対する評論も掲載されています。日頃から新聞をよく読む習慣をつけることにより、自然と「論説文」を書く力が養われると思います（新聞には、この他にも皆さんが受けているそれぞれの授業の参考になる記事［ニュースや論説等］も数多く掲載されていますので、これらの記事は、皆さんの勉強にきっと役立つことでしょう。また、その時々に社会的な関心を呼んでいる諸問題に関する論説を読んでおくことは、就職活動や教員試験、公務員試験等の準備としても大変有意義です)。

それでは、以下、レポートを書くにあたって特に重要である「構成」と「テクニック」の２点について順に述べていくことにします。

レポートの構成について

レポートを書こうとする際には、思い浮かんだことをそのまま書くのではなく、あらかじめ、その

構成（目次と考えても結構です）を考えてから書き始めることが大切です。

まずレポートの課題を明確にする

まずレポートの冒頭で（例えば、「はじめに」という項目で）、このレポートがどのような課題に基づいて書かれたものかを明記します。言い換えるならば、先ず冒頭で、そのレポートのテーマを明確にしておくということです。

研究史を調べ、考察の出発点を確認する

次に、その課題に関するこれまでの研究の成果について調べます。大抵の場合、その課題に対しては、既に様々な人たちが検討を加えていると思います（決して皆さんがその課題のパイオニアではないと思って下さい）。そこで、その課題について、

a. これまでの研究の歩み
b. 研究の成果
c. 残されている課題

等を整理します。この作業によって、レポートを書き始めるに際しての、自らの考察の出発点が明らかになります。研究史とそこから見出した課題の書き方としては、以下のような例文を参考にして下さい。

「今までの研究で△△までは明らかになっているが、○○の問題には言及されていないので、今回このレポートで検討してみたい」

「今までこの問題については、○○氏が△△と述べているが、私は○○氏とはやや異なる見解を示してみたい」

自身の考察（レポートの核心）を書く

先にも書きましたが、レポートは「論説文」であり、「感想文」ではありません。研究史をふまえた上で、いよいよ皆さん自身の「感想」ではなく「見解」を記して下さい。その際には「見解」の根拠となる資料や文献を参照しながら（使用した資料や文献は、必ず「注（註）」に明記します。その書き方は後述します）、十分にそして丁寧に論旨を展開して下さい。

最後に考察内容をまとめ、併せて残された課題を明記する

最後に（例えば「まとめ」という項目で）、このレポートで自分が指摘したことを整理して要約します。その後で、今後に遺された課題を明記しておきます。頑張って書いたレポートだと思いますが、与えられた課題に対して100% 満足のいく内容にはなることは稀だと思います。むしろ、レポートを書いたことによって、次々と新たな疑問や課題が見つかるはずです。今後に残された課題を明らかにしておくことも、学問の発展のためには、重要です。

そして全文を書き終わったら、必ずもう一度読み返して、細かい点などをよく確認して、より良い文章に仕上げて下さい（この作業を「推敲=すいこう」と言います）。一度、声に出して読んでみるのもよいでしょう（彼氏、彼女にお願いしてみては？）。

レポート執筆に際しての留意点について（テクニック）

レポートや論文を書くにあたっては、いくつかの「約束事」があります。最初に述べたように、日頃から「論説文」に親しみ（繰り返し読んで）、その文体に慣れ、構成の立て方等を学んでおけば、そう難しいことではないのですが、以下にその「約束事」をまとめておきます。

自らの見解と、他者の見解を明確に区別する

レポートは、先にも述べましたが「感想文」ではありません。必ず他者の見解（先行研究）を参照しながら考察します。その際には、自らの見解と、他者の見解を明確に区別して記します。自らの見解は1人称で記します。他者の見解をそのまま書き写す場合には、

○○氏は「□□は△△である」と指摘しており、

とか、

「□□は△△である」という○○氏の見解がある。

といった具合に「 」を用いて引用します。ただし、その内容を自分で要約して引用する場合には、「 」は不要です。そして、このどちらの場合にも、引用部分には注（註）番号を付し、レポートの末尾に注（註）としてまとめて出典を明記します（本項の最後にある例文を参照して下さい）。なお、引用に際しては、

a. レポートの本文の方が、引用部分よりも主（メイン）となること
b. 必要最低限の引用であること
c. 出典を明記すること

の3点が著作権法にその条件として定められています。

禁じられている「剽窃（ひょうせつ）」と「盗用（とうよう）」

もし、書籍やインターネットのHP（ホームページ）にある他者の見解を、このように明記せずに、あたかも自分の見解のようにレポートに書いてしまうと、これは「剽窃（ひょうせつ）」または「盗用（とうよう）」といって、著作権法が保護している他者の著作権を侵害したことになります。『広辞苑』で見ますと、「剽窃」については「他人の詩歌・文章などの文句または説をぬすみ取って、自分のものとして発表すること」と記され、「盗用」については「ぬすんで使用すること」と記されています。もしこのようなことを実行してしまうと（いわゆる「コピペ」！）、著作権法に抵触したことになってしまい、もし仮に著作権者、すなわち書籍やインターネットのHPに、オリジナルの文章を書いた人から訴えられた場合、法廷でその是非を争わなければならず、敗訴した場合（有罪が確定した場合）には、罰金が課せられる可能性があります。

書籍・論文・HPの引用法

では、書籍・論文・HPの引用法を紹介します。

書籍を引用する場合には、

・著者『書名』出版社、初版刊行年

を明記し、雑誌または書籍に掲載された論文を引用する場合には、

・著者「論文名」『雑誌名（書籍名）』雑誌号数（書籍の出版社）、発行年

を明記します（これも本項の最後にある例文を参照して下さい）。

また、インターネットのHP（ホームページ）から引用する場合には、必ずサイト名とアドレスを明記します。（これも本項の最後にある例文を参照して下さい）。

安易にインターネット（HP）を引用しない !!!

ところで、インターネットから「手軽に」得られる情報は数多くあります。そのため、これらを利用しようとする際には、そのHPの開設主体をよく調べて判断する必要があります。公的機関が開設するHPは比較的信頼出来ますが、匿名のものなどは利用すべきではありません。掲載内容を問い合わせて確認することも出来ません（実は、あなたの家の近所のおじさんが、定年後に趣味で開いているHPだったりして…）。また、皆さんがよく使用するインターネット百科事典「Wikipedia」は、利用者の書き込みが出来るため、誤りが多々あることが知られています。そのため、「Wikipedia」を読んで、調べようとしている特定の語句の内容について「アタリ」をつける（その概要を知る）ことは良いのですが、この「Wikipedia」を注（註）に掲げることは避けて下さい。また、それぞれのHPは、いつ内容変更や閉鎖があるかもわからないという点において、一度刊行されると回収することが出来ない書籍（本）に比べると、ある意味無責任であると述べても過言ではありません。

信頼度の高い書籍（本）で調べよう

その内容が様々なHPに比べて、一度刊行されるといつまでも図書館等で読むことが出来る書籍（本）の内容は、ある程度、信頼出来ます。書籍（本）は、それぞれの出版社がその内容に責任を持って刊行しています。図書館に足を運ぶことを面倒くさいと考えず、日本の大学の中でも屈指の蔵書を誇る大東文化大学の図書館をフルに活用して下さい。

要するに、書籍、雑誌論文、HPのどれを引用するにしても、レポートの読者（第三者）が、後日、書かれた内容を再検証することが出来るように、情報を開示しておくということが、レポート執筆者の最低限のマナーです。

レポート本文の参考例

以上述べてきた点をふまえて、仮に「日本における鉛筆の歴史」と題するレポート本文の参考例を示してみたいと思います。注（註）の付け方・書き方等の参考にして下さい。

（例）

「日本における鉛筆の歴史」

我が国における鉛筆の歴史は、静岡県静岡市の久能山東照宮に保存されている、徳川家康（1542〜1616）が江戸時代の初期にオランダ人から贈られたという鉛筆や、仙台の伊達政宗（1567〜1636）の墓所から出土した鉛筆に始まるという。(1)

その後、明治時代に入り、本格的に鉛筆の輸入が始まったようであるが、最初に輸入された鉛筆としては、1761年に鉛筆の製造を開始し、初めて断面六角形の鉛筆を作ったことでも知られている、ドイツのファーバー・カステル社(2)の製品であった可能性が高いと思われる。

現時点で知られている我国の鉛筆の歴史に関する情報は上記の通りであるが、今後の近世大名墓の発掘調査の進展によっては、新たな事例が追加される可能性もあると考えられる。

注（1）中央公論編集部『文房具の研究』中公文庫、1996年。
（2）H.P.「FABER-CASTELL」。http://www.nshcgjjp/brands/faber-castell/home.htm

おわりに

入学後、皆さんが所属する学部・学科の専門科目、そして全学共通科目において、これから卒業までに、たくさんのレポートを書くことと思います。レポートは、書けば書くほど上手になること間違いなしです。どうか頑張って下さい。そして最後にもう一つ。よい文章を書くためには、よい文章をたくさん読むに限ります。ぜひ、たくさんの本を読んでよい文章スタイルを自然と身につけて下さい。

（宮瀧交二／英米文学科）

◆コラム◆
各分野の基本的な辞典・事典の一覧

✻日本文学科✻

『日本国語大辞典・第二版』（全13巻別巻１）　小学館　2000～2002年
『角川古語大辞典』（全５巻）　角川書店　1982～1999年
『大漢和辞典』（全12巻索引２）　大修館書店　1955～1960、2000年
『角川新字源』　角川書店　1968年
『日本古典文学大辞典』（全６巻）　岩波書店　1983～1986年
『日本近代文学大事典』（全６巻）　講談社　1977～1978年
『日本文芸鑑賞事典』（全20巻）　ぎょうせい　1987～1988年
『国史大事典』（全15巻）　吉川弘文館　1979～1997年
『人物レファレンス事典』（全５冊）　日外アソシエーツ　1983年

✻中国文学科✻

諸橋轍次著　『大漢和辞典』　大修館書店
大東文化大学中国語大辞典編纂室編　『中国語大辞典』　角川書店
漢語大詞典編輯委員会・漢語大詞典編纂処編纂　『漢語大詞典』　上海辞書出版社
漢語大字典編輯委員会　『漢語大字典』　四川辞書出版社
愛知大学中日大辞典編纂所　『中日大辞典』　大修館書店
近藤春雄編　『中国学芸大事典』　大修館書店
尾崎雄二郎・竺沙雅章・戸川芳郎編輯代表　『中国文化史大事典』　大修館書店

✻英米文学科✻

学習用：
『ジーニアス英和辞典（第５版）』　大修館　2014年
『プログレッシブ英和中辞典（第５版）』　小学館　2012年
『ウィズダム英和辞典（第３版）』　三省堂　2012年
大辞典：
『新英和大辞典（第６版）』　研究社　2002年
『ジーニアス英和大辞典』　大修館　2001年
『ランダムハウス英和大辞典（第２版）』　小学館　1994年
語源：
『英語語義語源辞典』　三省堂　2004年
『英語語源辞典』　研究社　1997年
その他：
『熟語本位 英和中辭典』　岩波書店　1933年

✻教育学科✻
細谷俊夫他編　『新　教育学大事典』（全８巻）　第一法規出版　1990年
久保義三他著　『現代教育史事典』　東京書籍　2001年
平原春好・寺崎昌男編　『新版　教育小事典』　学陽書房　2011年
茂木俊彦他編　『特別支援教育大事典』　旬報社　2010年
森上史郎他編　『保育用語辞典（第８版）』　ミネルヴァ書房　2015年
浜田寿美男他編　『発達心理学辞典』　ミネルヴァ書房　1995年
日本発達心理学会編　『発達心理学事典』　丸善出版　2013年
石口彰監修　『臨床心理学用語辞典』　オーム社　2008年
日本心理臨床学会編　『心理臨床学事典』　丸善出版　2011年
同編集委員会編　『解説　教育六法　2015』　三省堂　2015年

✻書道学科✻
伏見冲敬編　『角川書道字典』　角川書店　1977年
西林昭一著　『中国書道文化辞典』　柳原出版　2009年
東南光編　『宋四家字典』　二玄社　1990年
西川寧篇　『書道講座（新装版）』　二玄社　2009～2010年
小松茂美編　『日本書道辞典』　二玄社　1987年
飯島春敬編　『書道辞典』　東京堂出版　1981年
『国史大辞典』　吉川弘文館　1979～1997年
筒井茂徳編　『携帯かな字典』　角川書店　1984年
書学書道史学会編　『日本中国・朝鮮書道史年表』　萱原書房　1997年

梨木のツブテ

ラ・フランス…

ionius

図書館に行こう！

初めに

まずは大東文化大学の図書館に足を運んでみましょう！

東松山校舎であれば、１階から４階まであるフロアを見渡してみると、本の数が高校の図書館とは比べ物にならないほどであることに気が付くはずです。さらにカウンターで手続きをして地下書庫、特にB1に行くと、外国語書籍がまるで海外の大学図書館にいるような錯覚を覚えるほど数多く並んでいます。本学図書館の蔵書数は東松山と板橋を合わせて148万冊、全国の大学図書館の中で40番目（日本の全大学数は779校）です。まず蔵書数の多い大学に来たことを誇りに思いましょう。

大学生活の中で皆さんは、それぞれの所属学科の授業で課される課題をこなしていかなくてはなりません。しかし、大学での勉強が高校時代と違うところは、自分のしたい勉強ができることです。在学中の皆さんの課題の一つは、自分が深く勉強したいことを見つけること。そして皆さんの「勉強したい！」に応えてくれるのが図書館です。自分の勉強したい分野の本が置いてある書棚に行って、本の題名を見て、「お、面白そう！」と思ったら手に取って開いてみましょう。自分でも読めそうと思ったら、是非借りて読んでみましょう。そこから限りない知の世界が広がることでしょう。

本を探すには、図書館内のあちこちに置いてあるパソコン上のOPACという図書館検索サービスを使います。もちろん自宅のPCやスマホからでも、大学HPから図書館HPへ行けばOPAC検索が可能です。OPAC検索の仕方は、図書館HP上にある動画で丁寧に説明してくれています。また自分で分からなければカウンターの図書館スタッフに訊ねましょう。スタッフは喜んで皆さんが読みたい本に辿り着くための手助けをしてくれます。

ラーニング・コモンズ、グループ学習室

図書館と言えば静かに読書し勉強するところですが、時には本を前にして友だちと話し合いながら勉強したい時もありますね。授業での発表準備をする時、授業の課題を一緒にやる時など…。複数の人間が資料を目の前にして議論する形の学習の空間をラーニング・コモンズと言います。大東の図書館にもラーニング・コモンズが用意されています。東松山図書館は２階、板橋図書館は図書館前のガラス張り建物内にあります。予約の必要はありません。ぜひ活用して下さい。また仕切られた部屋でグループ学習をしたい時には、「グループ学習室」という部屋もありますので、こちらもぜひ活用して下さい。ここは図書館カウンターでの予約が必要になります。

ただし、これらの空間は単なる「おしゃべりして良い」ところではありませんので、勘違いしないように！（おしゃべりは図書館の外へ出てやりましょう。）

学習支援コーナー

一旦授業が始まると、勉強に関して色々な悩みが出るものです。授業でレポート課題どう取り組ん

でよいか分からない、教科書の中で意味の分からない用語が出てきたが、どう調べたらよいか分からない、等々。そんな時、上記ラーニング・コモンズ内にある「学習支援コーナー」に行ってみて下さい。ここには様々な学部学科の先生方または大学院生がいて、皆さんに学習のアドバイスをしてくれます。予約の必要はありません。ただし、教員・院生のいる時間といない時間がありますので、図書館 HP の「学習支援コーナー」で週間スケジュールを確認してください。

AV コーナー

東松山図書館の地下 1 階に階段で降りると、視聴覚資料のある部屋があります。多数の映画や音楽があり、ここで視聴をすることができます。授業の空いている時間を使って、外国映画を一本観るなどしてみては如何でしょうか？　皆さんの大学での一日が一層豊かになるはずです。

電子ブック、電子ジャーナル、オンラインデータベース

現在あちこちの大学図書館で図書資料の電子化(紙ではなくパソコン上で見られるようにすること)が進んでおり、「そのうち図書館の全資料がメモリースティック一本に収められてしまう時代が来る」という大学学長もいるくらいです。大東はまだそこまで電子化は進んでいませんが、それでも多くの資料がインターネット上で見られます。また VPN 接続という方法で、自宅のパソコンからの閲覧も可能になっています。図書館 HP 上で「電子ブック」「電子ジャーナル」「オンラインデータベース」というところを見て、皆さんも少しずつ使い方を身に付けていきましょう。

国立国会図書館

18歳になっている皆さんは、永田町駅徒歩 2 分のところにある国立国会図書館の利用が可能です。本館に隣接する新館に行けばすぐに登録利用者カードを発行してもらい、その日から利用できます。国会図書館の蔵書数は図書資料だけで約1000万点。ここでは貸し出しは一切できず、すべて館内での利用になります。大学図書館と勝手が違うので慣れないかも知れませんが、ここに来ると大学生からお年寄りまで調査研究をする方々が集まりますので、「これが学問というものか」という雰囲気を味わうだけでも価値のあることです。ぜひ足を運んでみて下さい。ちなみに、国会図書館では200万点以上もの図書資料をデジタル化してインターネット上で見られるようにしており、その多くが大東の図書館 HP を通じても閲覧が可能になっています。詳しくは図書館 HP を参照のこと。

他大学の図書館も見てみよう

本学図書館に148万冊の書物があるとは言え、本学になくて他大学図書館にある本も多数あります。そういう時は本学図書館のカウンターで紹介状を作成して頂いて下さい。紹介状があれば他大学図書館に入り希望の図書を閲覧することができます。大東以外の図書館の雰囲気を味わうことも良い刺激になることでしょう。

（小池剛史／英米文学科）

◆コラム◆
教員の薦める本①

北村薫　『空飛ぶ馬』	滝口明祥｜日本文学科｜

日本文学科の学生で、落語好き。そんな本書のヒロイン「私」は、落語家の円紫師匠と出会うことによって、それまで不可解に思いながらも通り過ぎていたような日常の些細な（?）出来事と向き合うことになる。殺人のような、いかにもといった犯罪ではない「日常の謎」を扱ったミステリーの元祖であり、「円紫さんとわたし」シリーズの第一作でもある。本書では大学２年生である「私」も、シリーズ第四作『六の宮の姫君』では卒業論文を執筆し、第五作『朝霧』では社会人となる。「私」の成長ぶりを見るのも、このシリーズを読む楽しみだと言えるだろう。

坂口安吾　『風と光と二十の私と』	千葉一幹｜日本文学科｜

坂口安吾と言えば、「白痴」や「私は海をだきしめていたい」、「桜の森の満開の下」、「青鬼の褌を洗う女」といった小説あるいは「堕落論」や「日本文化私観」といった評論で名高い。そうした作品もいいが、この「風と光と二十の私と」は安吾が作家になる前、現在の下北沢にある小学校の代用教員をしていた頃のことを書いたもの。これを読んでいる学生さんたちと同じ二十歳の頃のことが描かれている。「本当の美しい魂は悪い子供がもっている」なんて言葉があって、泣かせる。岩波文庫や講談社学芸文庫、角川文庫（『白痴・二流の人』）などで読める。

影山誠一　『中国経学史綱』	中林史朗｜中国文学科｜

中国思想分野の中心に位置する、経書を中心にした経学を研究する人は、最近めっきり減ったが、古代から清朝までの経学の歴史を概観出来る本として、ぜひとも学生諸君に読んで頂きたいのが、影山誠一著の『中国経学史綱』である。この『中国経学史綱』は、経学の説明から始まり、先秦から清末までの、各時代の経学傾向や経学者の解説をし、最後に清朝の代表的叢書を紹介して終わると言う内容で、経学史を理解し、その知識を獲得するには、極めて簡便にして且つ内容の濃い本である。本書は、大東文化大学東洋研究所の出版物で、大学内の書店（進明堂・池上書店）や汲古書院・東方書店等が取り扱っており、入手し易い本でもある。

四方田犬彦　『電影風雲』	中林史朗｜中国文学科｜

ハリウッド映画も面白いが、折角東京の大学に居るのだから、アジア映画を見歩くのも、楽しいことである。そのアジア映画の代表的入門書とでも言うべき本が、四方田犬彦の『電影風雲』（白水社）である。アジア映画の歴史的概略を述べた後に、韓国・台湾・中国・香港の代表的監督23人を取り上げ、各監督の作品やその内容等が、詳しく紹介説明されている。それだけでは無く、殆どベールに包まれている朝鮮民主主義人民共和国の映画も紹介し、５人の監督とその作品も解説されている。映画好きの特にアジア映画に興味の有る学生諸君に勧める、一書である。

タメイキで
逃がすナ!

君の赤いトリ!!

iouinS

インターネットの活用法・活用の仕方

仮パスワードの取得

学内のパソコンを利用する場合は、パスワードが必要です。東松山校舎学園総合情報センター事務室（7号館3階）にパスワード発行機が設置されていますので、学生証を持参して、各自の仮パスワードを取得しましょう。講義の開講前までに終えておきましょう。

学内で利用できるパソコン

東松山校舎の情報実習教室（18教室）と図書館、板橋校舎の情報実習教室（7教室）と図書館に設置されているパソコンが利用できます。情報実習教室は授業で使用しない時間をオープンアワーとして解放していますので、自由にパソコンを利用することができます。図書館でパソコンが利用できる時間は、図書館の開館時間に準じます。

学内でパソコンを利用する場合の注意点

①飲食、濡れた傘の持込み禁止

情報実習教室や図書館では飲食したり、飲食物を持ち込むことは禁止です。情報機器の床下には多数のケーブルが配線されていますので、濡れた傘の持込みも禁止です。傘は傘立てに入れましょう。モラルを守って利用しましょう。

②個人用データ領域（Z：ドライブ）

Windowsを利用の場合、Zドライブは各個人のデータ領域です。Zドライブ内のフォルダ Profileはシステムが使用します。変更や削除をしないようにしましょう。

③不要になった印刷済みの用紙

設置されているプリンタで印刷ができます。不要になった印刷済みの用紙は、持ち帰るか、折り曲げずに「不要印刷済み用紙入れ」に入れましょう。

④ CD、USBメモリの取り忘れ

CD、USBメモリの忘れ物が増えています。退室する前に必ず確認しましょう。

⑤添付ファイルはすぐに開かない

知らない人からのメールや内容のわからない添付ファイルには、コンピュータウイルスや迷惑メール（スパムメール）が含まれている危険性があります。ファイルをすぐに開かず、ウイルス対策ソフトでスキャンしてから開くようにしましょう。

⑥個人情報の管理を徹底

Webサイト上で、住所・電話・クレジットカードの番号入力を促されたり、懸賞に応募してメールアドレスやIDの入力を求められることがあります。入力して送信した情報は、第三者に筒抜けです。個人情報を不用意に入力して送信しないよう習慣づけましょう。

インターネットの活用

①「お気に入り」に登録しよう

インターネットで頻繁に利用するWebサイトを「お気に入り」や「ブックマーク」として登録しておくと、即時に閲覧できるようになります。たとえば、Yahoo! JAPAN（ヤフー・ジャパン）のサイトには、Web、画像、動画、辞書、知恵袋、地図、リアルタイム、路線、天気、ニュースなどの検索項目が揃っています。登録しておくと瞬時に開くことができ、知りたい情報をすぐに入手することができます。

②インターネットは情報の宝庫

インターネットは、さまざまな知識を即座に提供してくれる情報の宝庫です。これを活用しない手はありません。大いに利用して結構ですが、Webの情報は、あくまでも補助的なものと考えておきましょう。大学での学びの基本は、テクストや研究課題と向き合い、図書館に足を運び、辞典や事典、研究書や論文などを自らの手でひもとき、そこから必要な情報を蒐集して、従来の学説に対する問題点の整理や検証、新たな資料による考察を通して、自説を立論することにあります。インターネットに頼りきらないようにしましょう。

③ウィキペディアをうのみにしない

課題レポートを提出させると、Webサイトの記事をそのままコピーしたものや、Web情報を自分の考えのように記述しているものが見られます。インターネット百科事典といわれる「ウィキペディア」をコピーしたレポートを何人もが提出して、ネタ元がすぐに露見し、苦笑せざるえないことがあります。このようなレポートでは及第点をもらえないでしょう。「ウィキペディア」の情報は必ずしも正確でありません。提供されている情報をうのみにせず、内容の正否を検証するようにしましょう。なお、課題レポートにWebサイトの情報を引用したり、参照した場合は、その箇所に注番号を付記して、WebページのURLを必ず明記するようにしましょう。

④博物館・美術館の情報を入手して出かけよう

首都圏には博物館や美術館が数多くあります。空き時間の比較的多い大学時代は名品や名画が鑑賞できる絶好の機会です。積極的に足を運びましょう。インターネットを利用して、催し事に関する予備知識や、開館日、開館時間、アクセス、マップなどの情報を事前に確認してから出かけると、作品への理解を深めるだけでなく、鑑賞する時間を浪費せずに行動することができるでしょう。ちなみに、全国の展覧会情報は、artscape（アートスケープ）の下記URLでの検索が充実していて便利です。
http://artscape.jp/exhibition/schedule/exhi_schedule_result.php?area=8

（浜口俊裕／日本文学科）

◆コラム◆
卒業論文・卒業制作の題目一覧

✻日本文学科✻

『万葉集』に見る食文化
『日本霊異記』における地獄について
『大鏡』の研究
『枕草子』の研究
藤原定家と『小倉百人一首』の研究
近世文学における義理
『南総里見八犬伝』研究
『破戒』試論
夏目漱石論
太宰治と戦後
女性詩にみる自己批評とユーモア
村上春樹の作品における〈異界〉
医師としての森鷗外
感情をあらわす役割語の効果について

✻中国文学科✻

唐代の「かおり」の使われ方――杜甫・李白・王維の比較――
『三国志演義』における周瑜の役割
孫呉政権考
韓非子の思想について
李娃伝研究
「形音義」から見る漢字の考察
孔子とその思想
顔真卿書法研究と制作論――楷書を中心に――

✻英米文学科✻

英語における新語の誕生とそこからみる社会
現在完了の意味的特徴
兎説話と英米児童文学
Angela Carter の作品から見る女性像
A Study of the Closedness of Nathaniel Hawthorne
W. ブレイクの描くイギリスの影
日本人学生が苦手とする英語の文法事項に関する研究：to 不定詞と動名詞の違い

The Use of English in *Alice's Adventures in Wonderland* and *Through the Looking-Glass*
ブリテン島の地名と民族との関係
子供の語彙の獲得について
Francesca Lia Block の *weetzie bat* にみる男性優位主義社会で差別を受けた女性とゲイ

✻教育学科✻
大正自由教育のアンカー・小林宗作
　　――“トットちゃんの先生”から学び生かすもの
病院内学級にみる〈教育〉の本質――学習は何のために行うか？
インクルーシブ教育をめぐる光と影――ろう文化にみる多様性の尊重と融合
中二病にみる承認と自我同一性の問題
小学校算数における除法の教育方法の研究
　　――包含除と当分除の指導順序に関する論争に着目して
谷川俊太郎作品の教材的価値
国語科における平和教育の可能性――鎌倉実践の考察から
沖縄戦・何のために何を伝えるか――小学校教科書記述の分析から
小学校外国語活動と国際理解――共生社会における英語教育
認定こども園の現状と課題――S 園と I 園のフィールドワークを通して
フレーベルの恩物とモンテッソーリの遊具について
子どもの表現活動としてのダンス
男性の育休――新世代イクメン推進計画への足掛かり
子どもの遊び環境の再生についての一考察――学童保育にみる「遊び」の可能性
販売現場のエスノグラフィー――“無印良品”の仕組み

✻書道学科✻
手鑑と古筆切――個人蔵手鑑『翰墨城』について――
巻菱湖筆「鎮守御祭禮」幟の伝来
「本願寺本三十六人家集」における藤原定信の筆跡と料紙の変遷
金農の楷書書風と木活字体との関連性
書批評語と身体性
臨書　郭店楚簡
創作　韓世能詩「送友人南還」
創作　杜甫七言律詩「春夜喜雨」
臨書　寸松庵色紙
創作　宮沢賢治の詩「生徒諸君に寄せる」より
創作（篆刻）「游心」「延年」

キャリアについて

「働く」とはどういうことか

大半の学生は、社会人として新たな場を得て卒業していきます。

働くことの第一の目的は、生活の糧を得ることでしょう。衣食住を基本として、健康で精神的に豊かな暮らしを送るためのお金を、安定して得る手段として働く必要があります。さらに、仕事を通して社会とつながりを持ち、自分が社会の一部分を担っていることを実感することによって、達成感を得ることができます。職業を通して多くの人びとと多様な関係を構築していくことによって、人間的に成長し、生活にも張り合いが生まれます。

大学生活を通して、「働く」ということが自分にとってどういうことなのか、まずは考えてみることが大切です。

大学における学びが地力を形成することはもちろんですが、同時に、働く場についての知識を広げ、深めて、社会人として働く自分の可能性を具体的な行動に結びつけていってください。

まずはキャリアセンターへ

東松山校舎管理棟２階と、板橋校舎１号館２階にそれぞれキャリアセンターがあります。大学では、主に、このキャリアセンターで就職支援活動を展開しています。就職支援というと、３年生や４年生に対する就職先の紹介をまっ先に思い浮かべるかもしれませんが、実は、１年次から活用できるさまざまなプログラムが用意されています。

就職に関連する書類の作成方法、面接などのマナー講座、公務員や教員志望者向けの試験対策講座、各種の就職活動ガイダンス、論作文の添削、模擬試験、企業説明会の開催、インターンシップ先の紹介など、就職に関することなら何でも、キャリアセンターに出向いて相談してみましょう。

もちろん、キャリアセンターには多くの企業から求人の申込みがあります。キャリアセンターのスタッフのアドバイスを得ながら、自分の将来にじっくりと向き合ってみてください。

インターンシップ

インターンシップは、必ずしも就職活動のためだけに行うものではありません。就業体験を通して社会の構造を知り、企業などで必要とされる能力や技能などを自覚することによって、新たな学習課題を発見することができます。普段触れる機会が少ない社会人と職場を共にすることによって、働くことに対する意識が高まるに違いありません。

インターンの募集はキャリアセンターで行っているほか、マイナビやリクナビなどの就職支援サイトでも紹介しています。また、多くの企業や、市役所や県庁といった公官庁などでも窓口を設けて直接受け入れています。３年生がインターンの中心ですが、企業によっては１年生から受け入れ可能にしている場合もあります。また、興味のある業界や企業、職種をいくつか体験することも可能です。

インターンを経験することは、実際の就職活動にも役立ちます。

まず、それぞれが希望する職場を具体的にイメージすることができます。それによって、実際に就職した際のミスマッチの可能性が少なくなると考えられます。さらに、社会人に必要なさまざまなマナーが身につきます。職場を体験して得たものは、就職活動に直面した時に必ず役に立ちます。

近年では、インターンシップに参加した学生に対して、積極的に就職に関する情報を提供している企業も見られます。インターンは、原則として就職活動に直結するものではありません。しかし、企業の採用担当者からすれば、自分の会社に興味を抱いて、インターンに参加した学生に採用選考に参加してもらいたいと思うのも自然なことでしょう。

自らを知り、配慮を身につける

就職活動では、求人情報とその企業などに関する情報の獲得が重要であることはもちろんですが、一番はじめに必要なのは自分を見つめ直すことです。

自分はどのようなことに興味があるのか、どのような仕事をしたいのか、卒業後、どこでどのように暮らしていきたいのか。これまでの自分を振り返り、これからのことについて前向きに、真剣に考えてみましょう。就職活動につきもののエントリーシートや履歴書の作成には、長所や特技、不足している点なども含めた自己分析が必要です。しっかりとした中心軸があれば、面接で戸惑うことも少なくなるでしょうし、自信を持って進路を選択することもできます。

そして、自分の思いを相手に伝えるために、社会人としての配慮を身につけておくと良いでしょう。正確な言葉遣い、清潔できちんとした身だしなみ、書類を丁寧に扱い、心をこめて文字を書くことも大切です。日課として新聞を読み、社会の動きに関心を払っていると話題も豊富になるでしょう。いろいろな人の話に耳を傾け、自分の意見を口にすることで会話が盛り上がることもあります。こうしたちょっとした心がけが、これからの暮らしに潤いをもたらし、「欲しい」と思わせる人材に成長するための糧となるのです。

文学部の就職

文学部に進学する時、その先の進路を考えて少し不安になったのではないでしょうか。実際に、「文学」は就職に直結しにくいかも知れません。もちろん、専門性を生かして教員になる学生も数多くいます。専攻に関連する仕事に就くことも少なくありません。

一方、文学とは直接関係のない職場に就職する学生が多数いることも事実です。教員就職率の高い教育学科を除く各学科では、毎年、多様な職場に学生を送り出しています。文学部における学びは、感性豊かで魅力的な人格形成につながっています。新卒学生の就職では、即戦力となる機動力よりも、新たな場で柔軟に仕事に対応していくことができる可能性が評価されます。よく学び、視野を広げることこそ、良い就職活動の展開につながるはずです。

最後になりましたが、企業も就職活動そのものも毎年変化していっています。他者の意見は大切ですが、身近に溢れる情報を無批判に鵜呑みにするのは危険です。自ら行動し、確かな情報を選んで就職活動に活用してください。

（髙橋利郎／書道学科）

◆コラム◆
東松山を知ろう！②

東松山？松山？～まずは松山城へ！

本学では学生も教員も事務職員も「今日松山で授業」とか「松山で会議をします」とか言います。これは「東松山（校舎）」を略したものと皆さんお考えでしょう。確かにそうなのですが、実は「東松山」という地名は元々「松山」だったことは知っておきましょう。

現在の東松山は、昭和29年（1954年）にその前の松山町、野本村、高坂村、唐子村、大岡村が合併し市制が施行された時に生まれました。その時、元々の地名を受け継いだ「松山市」だと愛媛県松山市と混同するということで、「東松山市」という市名が当時の自治省から示されたのだそうです。ですから「東松山」市の昔からの住民にとっては「東松山」より「松山」の方が親しい呼び方です。「松山で授業」といった言い方にはそれなりの歴史があるのですね。

この「松山」の地名と由来となっているのが、東松山駅東口、「鴻巣免許センター」行きに乗って約5分「百穴入口」下車、8分ほど歩いたところにある（武州）松山城です。15世紀後半の築城とされるこの城は、戦国時代を経て、慶長6年（1601年）には廃城となり、現在は城山だけが残っています。城址跡まで登るとちょっとしたハイキングになり、晴れた日には山の上から東松山市全域を含む比企全域が見渡せますよ。

吉見百穴と地下軍需工場①

松山城まで足を延ばしたらぜひ行ってほしいのが吉見百穴（「ひゃくあな」と読みます）です。ここは古墳時代後期（6世紀末～7世紀末）に死者を埋葬するために造られた横穴墓です。黄土色の丘の斜面全体に台形型の入り口の無数の穴が空いています。一瞬奇妙な光景に見えるかも知れません。しかし手摺に掴まって階段を上り、横穴を覗いてみると、古代の人びとは一体どうやってこれらの穴をこんなにきれいに掘ったのだろう、そしてまた、1000年以上の時代を経てどうして現在にまでそのまま残ったのだろうと不思議に思います。何と、この丘全体は凝灰質砂岩と呼ばれる岩盤で出来ており、それは掘りやすく崩れにくい掘削に最適の岩盤なのだそうです。当時の人びとはそういうことを知っていてこの場所を選んだのでしょう。こういった百穴の歴史は、詳しくは敷地内にある「埋蔵文化財センター」で知ることができます。分からないことは中のスタッフの方が大変丁寧に熱意をもって教えてくれますよ。

吉見百穴を見学した後は、敷地内にある食堂「たかはし」で、手打ちそばやうどんを食べましょう。その日に打った手打ちの二八そば（小麦粉2割、そば粉8割で作ったそば）、手打ちうどんです。とっても美味しいです。店の方にも積極的に話しかけましょう。百穴や周辺地域の歴史について色々なことを教えてくれます。

吉見の百穴は、少し昔であれば埼玉県内の小学校で必ずと言っていいほど社会科見学で訪れていたところなのですが、最近は見学する小・中学生の数がめっきり減ったとか。まだ行ったことのない方、ぜひ足を運んで下さい！

（小池剛史／英米文学科）

大学
みんなで
学ぼう
シュー
シュー
シュー

美術館、博物館、史跡に行こう

博物館はいつも

子どものころ、家族と一緒に動物園や水族館に行った思い出がある人、ずいぶんいるのではないでしょうか。小学生や中学生になって、近くの郷土博物館に地域の歴史や文化について調べるために足を運んだこと、ありませんか。社会見学や修学旅行で旅先の美術館や資料館に立ち寄った人も多いでしょう。今日、ライフサイクルに合わせてさまざまな博物館を利用することが一般化しています。

美術館も、歴史資料館も、水族館や動物園、植物園も大きく分類すると博物館ということになります。さまざまな分野に広がる博物館ですが、すべてに共通するのは本物が見られるということ。遠く離れた国のこと、はるか昔の人類の営為、動植物の進化、さらには深海や宇宙のことまで、博物館には本当に多様なモノと、それにまつわる情報が詰まっています。

博物館には人それぞれの楽しみ方があります。大学における学びの一環として活用することはもちろんですが、時には少し背伸びをして、時には気楽にボーっと、博物館に出かけてみましょう。豊かな気持になれるはずです。

まずは近くから

高坂駅からのスクールバスが東松山キャンパスに到着する少し手前に動物園があります。埼玉県こども動物自然公園です。岩殿丘陵の大東文化大学に隣接する広大な園内では、コアラやキリンをはじめとする200種あまりの動物を見ることができます。また、モルモットやポニーなど、身近な動物と触れ合うこともできます。家族連れの多い動物園ですが、時には豊かな自然に囲まれて、動物たちと触れ合ってみるのもいいでしょう。

園内には、大東文化大学ビアトリクス・ポター資料館もあります。ピーターラビットで知られるポターの愛した、英国、ヒルトップ農場の建物を再現した資料館です。ビアトリクス・ポターに関する貴重な資料はもちろん、さまざまな絵本を実際に手にとって見ることができます。

さらに自然公園に隣接して埼玉県平和資料館があります。無料で入館できるこの資料館では、昭和の戦争期の資料が紹介され、映画や疑似体験などによって近代史に向き合うことができます。展望塔からは関東平野が一望できます。

大学のキャンパスとは少し離れますが、埼玉県行田市には国宝・金錯銘鉄剣が出土した稲荷山古墳を含む埼玉古墳群があります。現在はさきたま古墳公園として整備され、広々としたな園内には埼玉県立さきたま史跡の博物館があります。鉄剣と古墳とを合わせ見ると、古代史を一層身近に感じるはずです。

板橋区立美術館

板橋校舎の近くにも魅力的な博物館があります。みなさんがよく使う東武東上線沿線にある、板橋区の館園を紹介します。

成増駅からバスで５分ほど、都営三田線の西高島平駅から徒歩で10分ちょっと、大学から自転車で20分ほどのところに赤塚溜池公園があります。この公園内にあるのが板橋区立美術館と板橋区立郷土資料館です。

板橋区立美術館は江戸の絵画や板橋周辺の近現代美術、さらに絵本の展示などを得意とする美術館で、小規模ながらいつも凝った展覧会に出会うことができます。一方、郷土資料館では板橋の歴史や文化を知ることができると同時に、さまざまな特別展や企画展も開催されています。

このほか、上板橋駅の近くには板橋区立教育科学館があり、日常生活の中の科学のほか恐竜の化石なども見られます。プラネタリウムがあるのも魅力です。

池袋に出ると、サンシャインシティのなかに、サンシャイン水族館とコニカミノルタプラネタリウム、古代オリエント博物館があります。いずれも都市の博物館として濃密な展示を見ることができます。

上野の森へ

上野には、大きな博物館が集まっています。

JR 上野駅の公園口を出ると、すぐに上野恩賜公園です。その中心となるのは東京国立博物館でしょう。美術を中心とするナショナルミュージアムです。本館や東洋館では、日本やアジアを中心とする名品をいつでも堪能することができます。滅多に見ることができないような国内外の至宝を集めた大規模な特別展も頻繁に開催されているので、機会を逃さず出かけてみましょう。

上野恩賜公園には、このほかに恩賜上野動物園、国立科学博物館、東京都美術館、国立西洋美術館、上野の森美術館、東京芸術大学大学美術館があり、地域一帯が大きな総合博物館を形成しているともいえます。

さらに、それぞれの建築も見所です。東京国立博物館本館は渡辺仁、表慶館は片山東熊、西洋美術館はフランス人建築家ル・コルビジェの設計。昭和６年建築の科学博物館の脇には、原寸大のシロナガスクジラの模型も見られます。文化の集積地として、何度も足を運びたくなる施設が目白押しです。

国立科学博物館

個人コレクションを楽しむ

都内を中心に、経済界で活躍した人物が蒐集した個人コレクションを核とする美術館が数多くあります。五島美術館や根津美術館、出光美術館、三井記念美術館、山種美術館、ブリヂストン美術館、静嘉堂文庫美術館、埼玉では遠山記念館などが挙げられます。

東急の五島慶太、東武電鉄の根津嘉一郎、出光興産の出光佐三、三井グループで知られる三井家、山種証券の山崎種二、ブリヂストンの石橋正二郎、三菱グループの岩崎彌之助・小彌太父子、日興証券の遠山元一、近代の日本経済を支えた人物たちの多くが美術に関心を抱き、茶道具をはじめとする古美術を中心にコレクションを形成しました。個人コレクションには、それぞれにエピソードがあり、蒐集した人物の審美眼が垣間見られます。

これらの美術館は、いずれかといえば少し大人びた雰囲気で、敷居が高く感じられるかもしれませんが、落ち着いた雰囲気のなかでじっくりと美術を堪能することができます。これまでとは少し違った扉を開けてみるのもわくわくするものです。

街を楽しもう

大学では、全国各地、世界各地から来た仲間に出会うはずです。そうした仲間を媒介に、旅行に出かけることもあるのではないでしょうか。

旅先でその地の歴史や文化に触れようとするとき、寺社仏閣をはじめとする史跡や、絶景を楽しめる景勝地を訪れるのではないでしょうか。大学から日帰り圏内にも旅行気分を味わえる場所がたくさんあります。

東上線沿線なら川越。小江戸と呼ばれる川越には、喜多院や成田山などの寺社が数多く見られるとともに、蔵づくりの街並みが今日でも残っています。

上野に出かけたら、谷中や千駄木といった下町を歩いてみるのもいいですし、浅草や両国のあたりで江戸文化に触れることもできます。鎌倉や成田も十分日帰りできます。街歩きには身近な衣食住や歴史、自然に親しむことができる楽しみがあります。

お気に入りをたくさん

このほかにも、多種多様、自然や人のいとなみのあらゆる事柄が博物館には詰まっています。これからの人生において、さまざまな場面で博物館に出かける機会があるだろうと思います。博物館や史跡の楽しみ方は人それぞれ。博物館であることを特別に意識する必要もないのかもしれません。博物館の周辺にはさまざまな観光スポットがあることも少なくないですし、多くの館にはミュージアムショップやレストランが用意されていて、オリジナルアイテムも豊富です。皆さんそれぞれの感性に合わせて、多角的に活用することができるでしょう。

ここでは大学から無理なく行くことができる場所をいくつか紹介しました。東京、埼玉は本当に博物館の多い地域です。大東文化大学に在籍しているあいだに、是非お気に入りの館をたくさん見つけてください。

（髙橋利郎／書道学科）

◆コラム◆
東松山を知ろう！③

吉見百穴と地下軍需工場②

吉見百穴を見学すると必ず目に入るのが、幅三メートルはある広い入り口の洞窟です。入り口には「この洞窟は地下軍需工場の跡地です」と書いた大きな看板があります。この洞窟にも深い歴史があります。これは第二次世界大戦中に地下軍需工場を作る目的で昭和20年に掘られたものなのです。戦争の末期に日本各地の軍需工場がアメリカ軍の B29爆撃機の攻撃を受け破壊されました。そのため当時日本最大の飛行機会社「中島飛行機株式会社」のエンジン製造部門の全施設をこの吉見百穴の地下に移転することになったのです。ぜひこの地下壕に入ってみて下さい。よくこんな大きな洞窟を掘ったものだと感心してしまいますが、この掘削に直に関わったのは、全国各地から集められた、3000人から3500人と言われる朝鮮人労働者でした。ダイナマイトを使用しての掘削作業で、非常に危険な仕事だったことでしょう。完成した洞窟には飛行機工作機械が導入されましたが、本格的な製作活動が始まる前に敗戦を迎えました。結局朝鮮人の人びとの重労働もその後の工場移転も意味をなさぬまま終わってしまったわけです。

東松山名物「かしら」

さて、松山城と百穴の見物を終え、東松山駅に戻りましょう。夕暮れ時になると、駅の東口周辺に「やきとり」と書いた赤ちょうちんのお店が多数あるのが分かります。実は東松山市はやきとりで有名なのです。やきとり屋さんに必ず置いてある「東松山やきとり MAP」に掲載されているだけで50軒を超えます。ただ、東松山で「やきとり」と言えば、「鳥」ではなく豚のカシラ肉（豚の頬とこめかみ部分の肉）を使っています。それに、白みそをベースにニンニク、唐辛子などのスパイスを配合した「みそだれ」を付けて食べます。鳥ではなく豚なので、地元では「やきとん」の名で親しまれています。この「みそだれ」の原形は朝鮮料理で使うコチジャンです。実は、東松山名物「カシラ肉のやきとん」の創始者は、東松山の朝鮮の方々なのです。

百穴のところで、地下軍備工場に多数の朝鮮人労働者が地下壕の掘削に徴用されたことを述べましたが、戦後そのまま東松山に残った朝鮮人の方々の間で始まったのが豚のカシラ肉を使ったやきとんでした。豚の頭は通常食用にされないので安価に入荷が可能でした。カシラ肉を使って「やきとり」にし、それに朝鮮料理風にコチジャンを付けて販売を始めたそうです。「大松屋」というお店が元祖「やきとん」の店です。現在でも営業しています。今では東松山駅だけでなく高坂駅西口にも「かしら」を食べさせてくれる店が出ています。皆さん、あまり知られていない日本と朝鮮の複雑で密接な関係を大人として学び直すためにも、東松山名物のカシラを味わってみて下さい。

（小池剛史／英米文学科）

本屋さんに行こう

3つの「本屋さん」

この欄は文学部の学生を書店に誘導するためのコーナーですが、昨今の「本屋さん」をめぐる状況は大きく変化しています。

田口久美子『書店繁盛記』（ポプラ文庫、2010年）の冒頭は、某有名大学のゼミ学生たちが、先生の引率でジュンク堂書店を見学に来る場面から始まります。

引率の先生は、「ウチの学生たちは書店で本を買う、ということをしないので」と言い、「学生たちに書店では本がどう並んでいるかを実地に教える課外授業です」とも言っています。ここでの「学生たち」はもっぱらネットで購入しているとのことです。

大学生の「書店離れ」はどれくらい進んでいるのだろうか、と考えてしまいます。

現在の日本社会では、3つの「本屋さん」があると考えられます。

ひとつは、「リアル書店」。都内の大型書店から、町の小規模な本屋さんまで、たくさんあります。言うまでもなく、店舗まで出かけて、現物を購入するものです。

もうひとつは、「Amazon（アマゾン）」などの「ネット書店」。店舗まで行かずにインターネット上の手続きで、書籍の現物が配送されます。ここでは、書店はバーチャルですが、書籍はリアルであることが特徴です。大手書店のインターネットサイトにも、通販の項目があることが多いです。

最後に、「Kindle」「honto」「楽天 kobo」「Reader Store」などの電子書籍です。店舗（販売所）も、書籍（販売物）もバーチャル、ということになります。ここではタブレット等のディスプレイを通して、書籍を「読む」ことになります。

2014年度の出版物の推計販売額は1兆6065億円で前年度比4.5%の減少。一方、電子書籍は13年度の市場規模は936億円（28.3%増加）だそうです（「日本経済新聞」夕刊、2015年3月2日）。電子書籍に雑誌を加えた数字としては、2014年度の電子書籍・雑誌の市場規模は1411億円で、これは前年度より39.3%の増加ということだそうです（「日経新聞」2015年9月13日）。さらに、ネットで書籍を購入する人の割合は、13年度に1割を超え（「日経新聞」2013年12月8日、電子版）、高校生では、15〜16%が電子書籍で読書をしているそうです（「日経新聞」2013年9月21日）。

このように、数字を見ていくと、リアルな書店・出版物は斜陽産業、電子書籍などのバーチャル出版は急成長の産業、ということになってしまいます。

さきほど挙げた、3つの「本屋さん」のうち、いままで主流だったのは「リアル書店」で、それが書籍・雑誌等の販売を担っていたのですが、将来的にはどうなるかわかりません。「町の本屋さん」の廃業が増加していることは皆さんも実感しておられることでしょう。15年で半減した、というデータもあります。さらに、書店のない自治体が全国の5分の1にまで上っているそうです。

そうしていくと、やがて「リアル書店」は地上から消滅するのでしょうか。もしそうだとすると、

２つめの「ネット書店」も配送する書籍がないのだから、消滅する、ということになります。

電子書籍の利点は、携帯が楽、保管場所がいらない、速攻で購入できるなど、さまざまあって、昔ながらの書籍にはもう勝ち目はないかのように思えます。しかし、わたしは感傷でも追憶でもなく、旧メディアである「本」が、いずれ見直されることもあるのではないかと楽観しています。

CD の普及で、完全に絶滅したかに思われた LP レコードが、「音が良い」ともてはやされて流行していることは皆さんご存じでしょう。かつて（1980年代）、CD のほうが高音質などと宣伝されていましたが、あれはなんだったのかと思う今日この頃です。また、映画館での映画上映は今やフィルムではなく、デジタルデータが主流のようですが、「東京国立近代美術館フィルムセンター」ではフィルムによる保管をやはり大事にしているようです。長期保存という点では、歴史のあるフィルムのほうが信頼性があるらしいです。

ここらあたりに､旧メディアである「紙の本」「紙の書籍」が見直される契機があるかもしれません。

いざ、本屋さんへ

現在のところ、質・量とも「リアル書籍」が圧倒しています。電子書籍はまだまだ品数もありませんし、歴史の蓄積もありません。学生の皆さんが学習・研究を進めるには、まだまだ「リアル書籍」のお世話になるしかありません。

そこで、わたしとしては、皆さんはせっかく東京にいるのですから、都内の大規模書店に出かけてほしいのです。わたしがよく利用するのは、

・ジュンク堂書店　池袋本店
・紀伊國屋書店　新宿本店
・三省堂書店　神保町本店

などです（以前よく行っていた「リブロ池袋本店」は閉店してしまいました）。皆さんの近所の本屋さんもぜひ大切に使ってください。

それから､「神田神保町」の古書店街は日本一､いやおそらく世界一の古書店街だと言われています。これを利用しない手はありません（「神田神保町オフィシャルサイト」があります。検索してみてください）。一軒一軒が専門店です。そこの店主は（かなりとっつきにくいですが）その道のスペシャリストです。わからないことがあったら聞いてみてはいかがでしょうか。

また、地方の古書店も味わいがあります。大阪･京都･札幌･福岡に数件ある古書店をわたしは回ったことがあります（ほかの都市にもあるでしょう）。大学の近所にある傾向がありますが、最近は大分減ってきました。古書･新刊書、上手に利用して、皆さんの読書生活を豊かなものにしてください。

最後に。古書店では本の値段を値切ってはいけません。怒られます。

（山口敦史／日本文学科）

◆コラム◆
教員の薦める本②

長澤規矩也　『和刻本漢籍分類目録』　汲古書院　2006年	山口謠司｜中国文学科｜

本書は、わが国で出版された中国の書籍を網羅的に集めた目録です。この目録を見ると、わが国に影響を与えた様々な中国の本が、いつ、どこで印刷されたかが分かります。中国で書かれた本は、わが国では、平安時代から明治時代まで「経世済民」という理念を教える古典として読み継がれて来ました。しかしそのためには、一冊しか入って来ない本などを日本で印刷して普及させる必要がありました。目録は、本を探すための工具書として使われることが多いと思いますが、年表や辞書を「読む」のと同様、この目録を「読む」ことによって、わが国の文化を作った文献やその推移を知ることができます。

柄谷行人ほか　『必読書150』　太田出版　2002年	木村竜太｜英米文学科｜

お薦めの本にブックガイドを挙げることは禁じ手なのかもしれません。けれども一冊で150冊（+α）分の刺激を得ることが出来るという意味でこの本は素晴らしいというだけでなく、是非味わっていただきたいのは座談会部分（「反時代的「教養」宣言」）です。教養の死が宣告されつつある現在にこそ、教養とは何か（せっかく文学部に来たのですから！）について考えながら、その言わんとするところ、求められていることを味わいつつも打ちのめされてください。本書の序文の言葉、「このリストにある程度の本を読んでいないような者はサルである」に過剰に反応する必要はありません（告白するならば私もサルです）が、その言葉に反発しつつ、愕然としつつ、深く広い教養の世界へと入り込んで行きましょう。

朝吹真理子　『きことわ』　新潮社　2011年	生駒久美｜英米文学科｜

短編なのに、読了後も甘美な余韻に浸ることのできる小説です。葉山の別荘で遊んだ二人の少女が、25年後に再会して、別荘を片付けて、お別れするという内容です。たわいもない日常が描かれているように思えますが、自己と他者、過去と現在、夢と現実とを分断する境界線がほどけ、誰のものなのか分からなくなっていく、官能的な世界が描かれています。「自己実現」や「自己責任」といったことばが世間に溢れる中、「わたし」と「あなた」の分断線がほつれ、ほどけ出す、そんな不思議な小説を読んでみてはいかがでしょうか。

スザンヌ・ランガー 『芸術とは何か』 池上保太･矢野萬里訳　岩波新書	石渕　聡｜教育学科｜

芸術学の古典的入門書。芸術学とは、芸術を実践や鑑賞ではなく、学問の対象として考えていく学問です。例えば、音楽であれば音楽学、音楽美学、音響美学、舞踊であれば、舞踊美学、舞踊学、あるいは、広く舞台芸術学というように、芸術学、美学というカテゴリーや呼び名も実際は境界が曖昧です。本書で論じられるランガーの芸術論は､全ての芸術の根底にはその芸術の核となる｢本質｣があって、その本質が表現にもたらされる芸術媒体との関係を問題としています。ランガーはあらゆる芸術は同じシステムで成立している、という明快で力強い論理を展開しています。芸術学への入門書としては最適なものの一つです。

『書道講座』　全７巻　二玄社	河野　隆｜書道学科｜

西川寧編『書道講座』全７巻（二玄社）を揃えることを薦める。このシリーズは昭和46年より順次刊行されたものだが、昭和30年代初に出版され人気を博した旧版『書道講座』全８巻を全面改定した書体別概説書である。全巻装いを新たにし、第６巻篆刻は二色刷りとなった。すでに半世紀近くを経過しているが、平成21年にはリニューアルされて、現在でも購入可能である。近年、陸続と出版される類書の中で、これに勝る内容の書は現れていない。書というものの歴史や伝統を理解し、技法や様式を修得しようとする時の必備の好著である。

『或る「小倉日記」伝』	髙城弘一｜書道学科｜

主人公の田上耕作は、生まれつきの障がいがあり、身体を不自由にしていたが、勉学には秀でていた。（中略）耕作は、森鴎外が小倉で過ごした満３年の日記、『小倉日記』を補完することを思いつく。文献から小倉での鴎外の足跡を推測し、ゆかりの人物を取材し…。

サスペンスドラマの帝王・松本清張のごく初期の作品で、芥川賞を受賞しました。物事の真実を探求するのが学問で、研究方法は、いろいろあるでしょう。耕作のように、フィールドワークによって資料収集し、それを検討し、真実を見出すという方法も一つ。また、仮に、何かしらのハンデキャップを負っていたとしても、努力次第によっては克服できるという勇気と希望を与えてくれます。

映画を観よう

20世紀の世紀末が近づいたころ、映画誕生100年をいつ祝うかが議論されました。そもそも100年の起点は1894年か、95年か――

前者は、４月14日ニューヨークのブロードウェイでの、発明王ことエジソンによるキネトスコープの公開、後者は12月28日パリのグラン・カフェのリュミエール兄弟のシネマトグラフ有料試写のことです。

どちらもわずか数十秒、結果はリュミエール兄弟に軍配が上がりました。くらべてみると、キネトスコープの「くしゃみする男」などは写真が動くだけのようなものだし、シネマトグラフの「シオタ駅への列車の到着」は、ぐんぐん近づいてくる列車に観客がいっせいに逃げだしたといわれる迫力があります。しかし決め手は、キネトスコープが覗き眼鏡式の一人で見る形だったのに、シネマトグラフはスクリーンに映し出したことでした。

映画誕生から100年の1995年、少なくとも20年前までは、映画は暗闇で多くの人々が同時に観るものだったのです。子供にとっては大人の世界を覗き見る、大人はもうひとつの自分の可能性を空想する。映画館は猥雑でちょっぴり危険な匂いがする空間でした。だから「映画を観よう」とは、即「映画館に行こう」を意味し、学校で強く薦められる行為ではなかったのです。

その後、映画を観る環境は一変しました。誰でも自分だけの映像をビデオやDVDで所有することができ、好きな部分を瞬時にとりだすこともできます。一人で観ることが主流になりそうな気配です。そうなると、映画の発明者はエジソンの逆転勝利ともなりかねませんね。

それはともかく、映画は最大の民衆娯楽で、一期一会、二度と観ることのできない夢でもあったのです。かつて文芸評論家平野謙が、小説の面白さは「我を忘れる」か、「身につまされる」かだ、と言ったそうです。これは映画にもあてはまりますね。

*

私が一番多く映画を見た1965年ころから72年にかけては、もう産業としての映画の衰退期、単に娯楽を求める人たちはテレビに去り、映画館は映像表現の実験室、あるいは若者の鬱屈と反抗のるつぼでした。２本立、３本立が多かったので、年に300本以上観ていたでしょう。大学は封鎖、授業はほとんど無く、世の中は物情騒然、図書館で濫読か、映画館か、街頭デモで催涙弾に追いまくられるといった毎日でした。

そのころアートシアターが最先端の「芸術映画」で学生を集め、一方 場末の映画館では任侠映画が全盛でした。理不尽な抑圧に我慢を重ねた健さんがついに権力者にむかって脇差を抜く、煙草のけむり漂う客席では学生とヤクザ稼業の兄ちゃんが隣り合わせで拍手喝采、映画への陶酔は現実逃避の一面、映画の作者と観客たちの間には熱い連帯感があったような気がします。

しかし時代は移り、日本社会が成熟から老化の過程をたどるようになると、映画館には祭りの後の寂しさが漂っていました。映画館と映写技師の物語、イタリア映画「ニュー・シネマ・パラダイス」(1989、

ジュゼッペ・トルナトーレ監督）にはそんな熱い時代がよく描かれています（ディレクターズ・カット版より2時間バージョンが優れています）。

80年代に入るころから、私はカツドウ屋と呼ばれる古い映画人たちを訪ね、撮影の現場を長い時間をかけて歩きました。だから私の映画体験はやや人生的、歴史の文脈に置いて映画を観るということでしょうか。

*

さて映画も21世紀に入ってから、ハード面の進化とは逆に、娯楽としての力を失っていきます。また多くの映画が半年も経たないうちにDVD化されたり、ネットで見ることができようになりました。一方では現実社会と隔絶された衛生的空間シネコンの決められた席で、ポップコーンの大きなカップをかかえてスクリーンを眺めるのですから、いまや人生派あるいは社会派的な観客は少数でしょう。私も映画館で見るのは、年に50〜60本くらいに減ってしまいました。

最近の主流は、映画をテキスト（テクストとも書く、どっちが格好いいのかな）や情報として扱うことでしょうか。こんな文章が目につきました。

「優れた作品は独自の未知の世界として成立するのであり、それ自体は誰かの主張でもメッセージでもない。……そのような未知の特異な世界に固有の思考を、既存の現実の人間や共有された既知の観念に還元することに意味はない。映画を観るとはすなわち、暗闇の中の光に導かれて、私たち自身がそのつど未知のものへ変わることにほかならないからだ」(中村秀之「敗者の身ぶり」)。わかりますか？書物のように研究室の書棚に並べられたDVDを「解読」する。いまはそんな「映画学者」が増えています。これでは「映画を観る」のも、肩が凝りますね。

しかし映画は正統的な学者研究者などから軽視されてきたために、どんな観方もありという状況です。たとえば、シナリオの分析を通して文学と映画の関係を考察することもまだ未開の領域ですし、面白い映画が作られていない作家、例えば夏目漱石、太宰治、村上春樹らと、優れた映画化作品のある森鴎外、芥川龍之介、島崎藤村といった作家をその面から比較してみることなども興味がわきませんか。

また大正から昭和のはじめ、まだ無声映画の時代に映画製作に深くかかわった谷崎潤一郎と川端康成のその後の小説、例えば「春琴抄」と「雪国」がどんなふうに映画になったかを調べてみると、二人の文章の特徴がわかってきます。川端康成のほうが、映像では表現できない不定形なものを多くもっているようです。二人とも映画と文学の違いがよくわかっていたために、自分の作品の映画化に寛容でした。

いま、私たちは映画史上の名作や大作でも、同時代の作品として観ることができるのですから、なんでもいい、興味をひいたものを手にとる、時代や国境を超えて呼びかけてくるものがあれば、世間の評価に気をとられずに、映画との会話を楽しんでみましょう。まずは初めから終わりまで流れの通りに見る。わからないところがあったり、どうにも気になるところがあったら、もどってみましょう。そのうちに読書に例えれば、行間から呼びかけるように、画面の隅々からテーマが現れてくる、作者たちが考えもしなかったことを読み取ることもできるはずです。

*

抽象的に話しているより、私がかつて映画館で観て、最近DVDで再見三見して、それでも面白かった映画をあげてみましょう。映画史上の名作リストではありません。

「戦艦ポチョムキン」（1925、セルゲイ・エイゼンシュテイン監督）

無声映画の一本といえば、これに止めを指す。1905年ロシア第一革命の水兵の叛乱、オデッサの階段に炸裂する暴力は革命プロパガンダをはるかに超えて映像の無限の可能性を拓いた。

「意志の勝利」（1935、レニ・リーフェンシュタール監督）

1934年のナチス党大会の記録。画面を圧倒する集団の力、演説するヒトラーの沈んだ表情、大量虐殺を実行したのは同じ人間集団なのだ。ドイツでは上映禁止、やっとDVD化された危険なドキュメンタリー。映像は真実に迫れるか。「夜と霧」（1955、アラン・レネ監督）もぜひ。

「荒野の決闘」（1946、ジョン・フォード監督）

OK牧場の空は高い。大草原に展開する死力を尽くして闘う男たちと美しい女たちの人間ドラマ。もし、知力体力精神力にすぐれていたら、西部劇の時代にアメリカに生れたかった。

「自転車泥棒」（1948、ヴィットリオ・デ・シーカ監督）

父と子の確執は世界文学の永遠のテーマである。しかし、父親の自転車泥棒を理解できるのは男の子しかいない。

「ローマの休日」（1953、ウィリアム・ワイラー監督）

欧州某国の王女さまのローマでの一日の冒険。大人になることの期待と淋しさが、もっとも美しく描かれた映画。

「ゴジラ」（1954、本多猪四郎監督）

日本怪獣映画の原点。核戦争と環境破壊への警鐘。そんなことはどっちでもいいくらい、小学生の私は感動にふるえた。

「甘い生活」（1960、フェデリコ・フェリーニ監督）

いつか自分本来の仕事をと願いながら浮ついたジャーナリズムの世界に疲労していく主人公。65年秋、私は深い虚無感にとらわれつつ、いまはなき日活名画座から新宿の街に踏み出した。

「裸の島」（1960、新藤兼人監督）

シジフォスの神話を思わせる瀬戸内海の孤島の一家の生活。人間は不毛の大地に水をかけ続けなければならない。台詞のない映像美。

「勝手にしやがれ」（1960、ジャン＝リュック・ゴダール監督）

なんとも不器用なギャングの死に際の一言「最低だ」。ショートカットの恋人ジーン・セバーグは「?」。

*

「ゴジラ」を除くここまでの映画は、公開より時間がたってから、新宿や池袋、銀座の名画座やフィルムセンターなどに通って観たのです。以下は、同時代に観たものです。

「用心棒」（1961、黒澤明監督）

空っ風吹きすさぶ桑畑に現れためっぽう強い浪人。もっとも面白い黒澤映画。リメイクのマカロニ・ウェスタン「荒野の用心棒」（1964、セルジオ・レオーネ監督）も、若きクリント・イーストウッド主演で痛快。

「豚と軍艦」（1962、今村昌平監督）
　日米関係の吹溜り米軍基地に寄生して生きるヤクザと若者たち、豚は日本、軍艦はアメリカ。安保法制を風刺したかのような重喜劇。
「キューポラのある街」（1962年、浦山桐郎監督）
　貧乏とは何か、学ぶとはどんな意味があるか……人生と社会の難問に毅然と挑む吉永小百合の意志的な姿勢に、高校１年生の私は襟を正した。
「秋刀魚の味」（ 1962、小津安二郎監督 ）
　いまや世界最大の巨匠オヅの遺作。若年の私には共感できなかったが、年をとるにつれて台詞一つ一つが重くなってきた。
「ドクトル・ジバゴ」（1965、デヴィッド・リーン監督）
　ロシア革命と世界大戦の激動に翻弄される男女の愛、生きる時代を選べない人間の宿命に考え込んだ。もう一度、大きいスクリーンでフィルム上映を観たいなあ。
「網走番外地」（1965、石井輝男監督）
　極寒の北海道雪原に展開する受刑者たちの自由への脱走劇。健さんの三白眼の迫力は、まさか文化勲章を受章するとは思えなかった。
「アルジェの闘い」（1966、ジロ・ポンテコルヴォ監督）
　アルジェリア独立革命。植民地主義者の抑圧に対抗するテロは正義の暴力か。ラストのデモの迫力がその回答だと映画は主張する。
「少年」（1969、大島渚監督）
　当り屋稼業で両親と日本縦断、逮捕されて完黙を貫く少年は日本の何を見たのか。怒りの映画監督大島渚、渾身のロードムービー。
「冒険者たち」（1969、ロベール・アンリコ監督）
　夢破れた男二人と女が宝探しの旅に出る。愛と友情、フランス映画らしい小粋な人間関係が美しい自然を背景に展開する。
「ゴッド・ファーザー」（1972、フランシス・F・コッポラ監督）
　イタリア移民の一家の血と愛と暴力に満ちた歴史大河映画。小難しい「地獄の黙示録」（1979）より重い緊張感。全３部作を見終わったとき、人の一生とはなにかを考えずにはいられない。
「仁義なき戦い」（1973、深作欣二監督）
　暴力は下積みの人間の最後の表現手段である。広島呉の焼跡闇市からヤクザ社会に身を投じた不幸な若者たちのわりにあわない戦後史。
「アメリカン・グラフィティ」（1973、ジョージ・ルーカス監督）
　60年代カリフォルニアの片田舎。大学進学に旅立つ前夜の高校生の物語。全編に流れるヒット・ナンバーが失われた時代への切ない郷愁をかきたてる。
「ジュリア」（1977、フレッド・ジンネマン監督）
　原作は劇作家リリアン・ヘルマンの自伝的回想。レジスタンスに参加して命を落とした親友ジュリアの痛恨の思い出。
「ルパン三世・カリオストロの城」（1979、宮崎駿監督）
　憧れのクラリス姫から「泥棒はまだできないけど、きっと覚えます」といわれたルパンの顔。アニ

メは単純が一番。

「E.T.」（1982、スピルバーグ監督）

人と人との理解は少年のような魂をもたなくては不可能なのだ。奇怪な宇宙人が次第に人類の友に見えてくる卓抜した演出。

「紅いコーリャン」（1987、張芸謀監督）

酒作りの年寄に嫁に買われた娘をめぐる滑稽かつ深刻なドラマが日中戦争下の高粱畑に炸裂する。私事ながら、銀座で会った主演の鞏俐さんの毅然たる美しさに圧倒された。1990年のことである。

「殺人の追憶」（2003、ポン・ジュノ監督）

希代の連続殺人犯を追う刑事、事件の真相を秘めるアジアの闇はどこまでも深く暗い。韓国映画の社会を見る目は確かだ。

「華氏911」（2004、マイケル・ムーア監督）

ドキュメンタリーはアジテーションだ。９・11同時多発テロの真相はどこにあるか、監督自らがカメラとマイクになって、戦争の本質に迫る。戦争の目的は、勝利ではない。無知と貧困を基に成り立っている階級社会の温存である……

＊

文学や絵画には人類始まって以来の歴史があるけれど、映画はたかだか120年、まだまだ未開の「芸術」です。契機をつかんで自分なりの観方を獲得すれば、すぐには役にたつことはないでしょうが、映画は、失意のときの友、人生の岐路にあたっての指南役、退屈しのぎの危険な誘惑者……として人生を豊かにしてくれるはずです。

1927年、はじめてのトーキー（発生映画）「ジャズ・シンガー」（アラン・クロスランド監督）から聞こえた最初のひとことは、You ain’t heard nothin’yet!　でした。

日本語字幕では「お楽しみはこれからだ」と訳されています。そう、たくさん観てきたあなたにも、あまり観なかったあなたにも、映画の楽しみは待っています。

（小野民樹／日本文学科）

◆コラム◆
これだけは知っておきたい作品

✻日本文学科✻

わかりやすい日本古典文学作品の入門書として、『ビギナーズ・クラシックス　日本の古典』（角川ソフィア文庫、現在31冊刊行）をおすすめします。『古事記』『万葉集』から『曽根崎心中』や『南総里見八犬伝』まで、古文の力がなくても古典の面白さがわかるように、現代語訳・あらすじを付け、ビジュアル面も活用して編集されています。（播本眞一）

✻教育学科✻

教育学を学ぶ上での最重要〈古典〉を挙げるとすると、第一は福沢諭吉の『学問のすすめ』、そして次には無着成恭編『山びこ学校』でしょう。ともに岩波文庫にありますが、前者は現代教養文庫から現代語訳が出ています。後者は、佐野眞一『遠い「山びこ」』新潮文庫と併せ読むとよいでしょう。また、小説として、幾度も映画化された壺井栄『二十四の瞳』角川文庫も価値を失っていません。なお、明日からの勉強の直接のガイドとしては、久冨善之他編の『図説教育の論点』旬報社などが役立つでしょう。（藤本　卓）

丸木美術館２階に展示されている「原爆の図（15連作）」

私がお勧めする美術作品は、東松山校舎からほど近い、丸木美術館２階に展示されている「原爆の図（15連作）」、中でも1950年から1954年に描かれた、「第一部 幽霊」から「第八部 救出」までの絵画です。広島の原爆をモチーフに、丸木位里・俊夫妻によって、墨を主な画材として描かれた、それぞれが八曲屏風を思わせる大型作品です。これらは観ていて楽しい絵でありません。一般的には、怖い・気持ちが悪い、という感覚が先に現れることでしょう。しかし、それこそが原爆の悲劇を表す作者の意図です。アカデミックな画面構成のもと、計算された鑑賞者の視線誘導、洗練された図と地（余白）の関係、圧倒的な素描力で描かれた、恐ろしくも美しい作品なのです。（関井一夫）

✻書道学科✻

「風信帖」　国宝、空海筆、28.8×157.9　京都・教王護国寺（東寺）所蔵

日本の真言宗の祖空海が天台宗の祖最澄に宛てた手紙三通をいいます。または第一通目を指すこともあります。第一通目本文が「風信雲書」で始まるのでこの名が付けられています。行草体で書かれ、王羲之の書法の影響も見られ、空海の代表的な書作品であるばかりでなく、日本書道史上の名品でもあります。内容的にも空海と最澄の交流を示す資料として重要です。

（安達直哉）

芝居を観よう

「芝居」とはいわゆる演劇全般のことを指しますが、昔、芝（の生えた地面）に居て（座って）見物したから、というのが、語源といわれています。昔の観劇の雰囲気がしのばれます。本項ではできるだけ、この「芝居」という語を使用してみました。

さて、みなさんが芝居を観るにあたってのガイドということです。すでに芝居大好き、という人もいると思いますが、あらためて本項を書き起こしてみました。私の専門は近世日本（江戸時代）演劇、すなわち「歌舞伎」と「人形浄瑠璃」でして、それに関わる記述が主になりますが、ご了承下さい。

一つ前言すれば、みなさんは首都圏に拠点を置く大東文化大学に入学されたわけですが、この地域では各種の、多くの芝居が上演されています。卒業後には、例えば地元へのＵターン就職を考えている人もいると思いますが、そういう人こそぜひ在学中に、できるだけこれらの芝居にふれていただきたいと思います（もちろんその土地土地で芝居は上演されています。特に古くから伝承されている「地芝居（じしばい）」と呼ばれる貴重なものもありますね。今まで複数の学生からその話を楽しく聞かせていただきました。こういうものが身近にあるならば、これも大事に思いを寄せて下さい）。

記述の順序についてはあれこれ考えたのですが、いわゆる「５Ｗ１Ｈ」に従って立項してみました。

When

芝居をいつ観に行くか。授業で芝居のことを扱うと、受講生のリアクション・ペーパー（コメント）で、「機会があれば観てみたいです」という記述にしばしば出会います。それに対しては次の回の授業で必ず、「機会があれば、ではなく、自分で機会を作って行って下さい」と言っています。観劇にはまとまった時間が必要で（江戸時代の人ならば一日がかりですね）、多忙な日常生活との折り合いをつけるのはたしかに難しいのですが、興味を持ったのならば、機会を待っていないで、ぜひ自分から、ということです。

Where

どこで観ますか。TV での放映、近年は市販やレンタルの DVD、さらには動画配信などにより、演目（作品）自体を身近で観賞することは手軽になりました。しかし、ぜひまず劇場に足を運んで下さい（芝居には「劇場」という意味もあります）。「劇場空間」という言葉もありますが、一定の時間をとって、しばし別空間に身を委ねるという経験をしていただくのがよいと思います。

上演中は舞台に集中する、というのがもちろんですが、お勧めしているのは、開演前や休憩中に、劇場の中を観て回ることです。劇場の構造（例えば舞台の間口の大小、客席の設置のしかた。別問題ですが、避難設備の確認は必須）、付属の施設（売店のお土産が楽しい、食堂は？）、他の観客の様子（客席の料金が違えば客層も違います。江戸時代は、観客たちもまた相互に観られる立場にある、という視点がありました。ただし、私たちは他人様をジロジロ観ない程度に…）など。

新装なった歌舞伎座（銀座）は、地下に広大な売店フロアができました。緊急時の広域避難場所も

兼ねているそうですが、これはご時世ですね。

さて観劇後に日常の空間に戻る時の気分も忘れがたいものです。歌舞伎座を出た時の銀座の夜空を見上げて、という感想はしょっちゅう聞きます。

楽しい劇場空間についての参考文献として、服部幸雄著・一ノ関圭絵『絵本　夢の江戸歌舞伎』（岩波書店2001年）を挙げておきます。

Who

誰が観に行くかというと、もちろん自分が行くのですが、一人で上記の劇場空間に身を委ねるのか、あるいは友人と一緒に行くのか、で気分も違って来るでしょう。その場でお互いの感想を述べ合うのも、もちろん楽しいですね。場合によっては、知らない人が声をかけてきたりします。劇場空間独特の熱気の中でそういうこともありますが、まずは冷静に対応しましょう。私個人の経験で言えば、学生の頃、あるご老人から「君は歌舞伎のことをありがたがって拍手してないか」と言われて困ったことがありました。

What

何を観るか、ということになりますが、これは最初の方でふれたように、ほんとうに様々なものがありますので、あふれる情報の中から、自分のアンテナにひっかかるものをどうか探し出して下さい。あるいは、それこそ偶然の機会（出会い）も大事にして下さい。

歌舞伎や人形浄瑠璃の事例を挙げ出すと際限がありません。外国演劇について個人的に印象深い特徴について、感想文になってしまいますが、少しだけ挙げておきます。イギリスのシェイクスピアの作品は、演出指定が細かくないので、その時々でどのような工夫がなされているかが面白いです（かつて観た『マクベス』の例では、登場人物全員がダーク・スーツに身を包んでカッコよかったです）。中国北京の京劇では、動きの激しさに目を奪われがちですが、実はその歌声が本領であり（「北京オペラ」という別名を聞いたことがあります）、当地の観客はそこにこそ熱狂していました。等々、メジャーな例だけでもやはり例は尽きません。

みなさんの友人で、学内外の活動で芝居をやっている、という人はいませんか。私は自分の専門分野の関係で、ゼミにそういう学生、そして卒業生が何人もいました。「今度芝居やります」とのお招きが来ると、色々な場所の小規模劇場へ、差入れを持って出かけ、元気な活動を観たものでした。そんな機会も大切にしたいですね。なお、こういうイベントの際には、感想文アンケートを依頼されることがしばしばあります。その場の感想をすぐ文章化するというのも、なかなか勉強になりますね。

繰り返しになりますが、多様な演劇の特徴、魅力は、ぜひ自分で探し出して味わって下さい。

How

どうやって観に行くか、それはもちろんチケットを購入することから始まります。私が大学に入った年、クラスの友人から、「歌舞伎を観るにはどういう手続きがいるの？」と質問されて当惑した覚えがあります。おそらく、「伝統芸能」という意識があり、役所への申請というようなことを想像していたのでしょう。そんなことは全くありません（ただし、特別なイベントの際にはそれなりの申込手続きが必要かもしれませんので、そういう際にはまず問合せが必要でしょう）。チケット購入は、

最近ではネット上で、というのが一般的になっているようです。前人気の高い演目の場合、電話予約ではなかなかつながらず、つながった時点で完売済みということもあるようです。場合によってはもちろん当日購入も可能です。

チケットを無事入手（事前の場合も、当日引換えの場合もあり）、当日来場して、（それから劇場内をウォッチングして）、着席、あとは観劇です。

古典演劇や外国演劇については、勉強、予習が必要なのか、という疑問もあるでしょう。まずはなんの予備知識もなく、素手で立ち向かってそのインパクトを味わう、という立場もありえます。しかし、基本的な題材、背景、梗概（こうがい＝あらすじ）については、頭に入れておいた方がよいかと思います（当日プログラムを購入すれば、そこにも記されています）。人形浄瑠璃の上演中、舞台を観ずに、手元の活字本所収の本文を目で追っている、学生らしい観客を見たこともあります。人形浄瑠璃については、かつて、「観に行く」ではなくて、「聴きに行く」という言い方があったそうで（前述の京劇についても似た話を耳にしました）、聴覚的に集中するのが主眼である、という考え方はたしかにあります。この人物の観客としてのキャリアはわかりませんので、一概には言えませんが、まずは、一応の予習はしておいた上で、当日の舞台に向き合う、というのが穏当なのでしょうか（中世演劇である能の謡曲のテクストなども、難しいという典型例でしょう）。

残念ながら、客席での飲食は、劇場によっては禁止されています。各劇場ごとのルールはくれぐれも守りましょう。江戸時代はもちろん客席飲食自由、売り子さんも出ている様子が浮世絵の類には描かれています。「幕の内弁当」というのもここから誕生したのですが…（かつて、ある歌舞伎役者の談話で、この飲食禁止という状況について、お客に対して「お察し申し上げます」と同情されている次第です）。

Why

なぜ自分は芝居を観るのか（興味があるのか）、あるいは、なぜ観ろと言われているのか、ということについては、ひとまず解答をお委ねしてしまいます。みなさんゆっくり、せっかく目の前に繰り広げられている色々な芝居を観ながら考えて下さい。ただしその際、興味関心と注意力を持って、主体的、積極的に見て下さい。

与えられたタイトルの「芝居を観よう」に関して、「芝居」という語については冒頭に触れましたが、「観よう」の「観」の字を本文中にも使用してきたことについて、下記の引用をもって結びといたします。

> 「見るんじゃあなくて観ることだ…聞くんじゃあなく聴くことだ」
> （『ジョジョの奇妙な冒険』第４部）

（池山　晃／日本文学科）

その人が
あるならば
何者かで
何もする
必要はナイ
ニーチェ
Beaunan

留学に挑戦しよう！

初めに

「知らないところに行く勇気を持つ」

これは、大東文化大学に来ていたドイツからのある留学生の言葉です。日本語を話していれば何とかやっていける日本での大学生活。そこから一歩踏み出して、誰一人日本語も通じない、日本文化も知らないところへ行く。これまで自分が「外国語」として勉強していた言葉を使って大学生活を送る。それが留学です。

とても勇気のいることです。しかし、留学から帰ってきた学生たちのほとんどは、「最初のうちは相手の言っていることが全く分からなかったが、だんだん分かるようになった」「慣れない生活にも徐々に慣れていった」と言います。そして、それまで「外国語」だったその言葉はいつの間にか「自分のもう一つの言葉」となり、「知らないところ」だったその国が「第二の故郷」になるのです。これはかけがえのない経験です。

もちろん留学は簡単に出来ることではありません。お金の係ることであり、二の足を踏んでしまうのは当然です。しかしこれらのリスクを考慮しても、留学のメリットは絶大です。少しでも留学に関心のある方、ぜひチャレンジしてみて下さい。

最初の一歩…国際交流センターに行く（東松山校舎 4 号館；板橋校舎 1 号館 2 階）

まず国際交流センターに足を運びましょう。スタッフの方に「海外での留学に興味があるのですが…」と話しかけてみましょう。経験豊富なスタッフの方が留学について具体的な情報を教え、あなたの夢を現実に近づける手助けをして下さいます。

国際交流センターでは留学を目指す学生のために様々なイベントを企画しています。

・留学説明会（英語圏・中国語圏）　・留学生との交流会

・TOEFL／IELTS 講習会　・留学体験談　・海外ボランティア説明会

また、学外でも留学関連の様々なイベントが行われており、すべて国際交流センターで情報を得ることができます。意外とあなたの住んでいる市で、留学したい学生を募集していることもあります。詳しくは国際交流センター HP をご覧下さい。

長期留学（一年間の留学）

一年間留学する場合、大東に在籍した状態で（つまり留学期間中も大東に学費を納めて）留学する形と、休学して留学する形があります。前者の場合、単位振替があります。現地で取得した単位が大東の単位として振替られるのです。この場合､大東を 4 年間で卒業することができます。後者の場合、単位振替がありません。この場合、留学期間を入れて少なくとも 5 年間で大東を卒業することになります。

【協定校留学】（単位振替あり）

現在（2015年）大東文化大学が協定を結んでいる海外の大学が、英語で授業を受ける大学が９校、中国語で授業を受ける大学が14校（中国、台湾）あります。これらの大学に留学する際に、大東に学費を払っていれば相手校に学費を払わず在籍できるという協定です。さらに大東から毎月３万円（×12か月＝36万円）の奨学金がでます。毎年５月～６月には募集が始まり、応募締め切りが英語圏では７月末、中国語圏は９月上旬です。試験は９月中旬（夏休み終わり頃）に行われ、主に小論文と面接によって審査が行われます。国際交流センターHPの「協定校留学」の頁で応募締め切りや提出書類をしっかりチェックしよう！

【奨学金留学】（単位振替あり）

自分の希望する大学に、奨学金をもらって留学するものです。奨学金は上限100万円＋本学１年分の授業料（約60万円）が支給されます。原則各学科１名に与えられます。応募条件、締切、選考方法は各学科によって異なります。入学時に配布されている『文学部履修の手引き』の終わりにそれぞれの学科の「奨学金留学制度」の情報が掲載されています。こちらをご覧下さい。

【私費留学】（単位振替あり・なし両方）

「協定校留学」「奨学金留学」両方とも、大東文化大学から補助を貰って留学するタイプのものですが、すべて自分で渡航費、現地校の学費、生活費を賄う「私費留学」も可能です。自分の希望する大学に留学することが可能です。この場合、大東に籍を置く形と、休学する形と両方あります。それによって単位振替の有無が決まります。希望する学生は必ず自分の学科の先生と相談して下さい。

短期留学（短期語学研修）

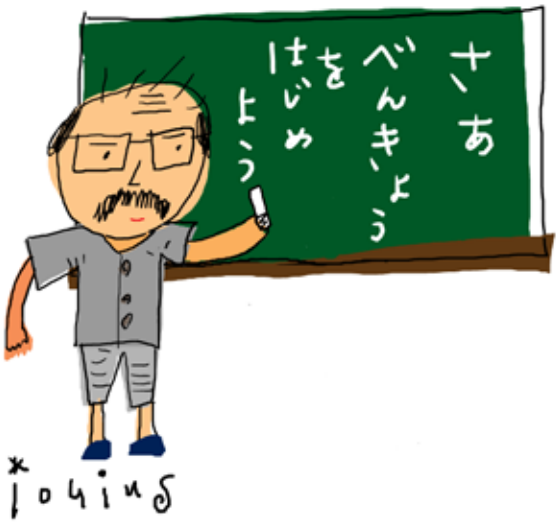
夏季休暇および春期休暇中に、３～４週間海外の大学で語学研修を行う短期研修があります。こちらには選考試験はなくどなたでも参加できます。詳しい情報は国際交流センターHPをご覧ください。

最後に…語学力を磨く

海外留学は、皆さんの外国語学習の延長線上にあると言っても過言ではありません。英語圏でも中国語圏でもその他の言語圏でも、留学を希望している国の言語が使えるようになっておく必要があります。留学を希望する方は、その準備として、今皆さんが受けている外国語の授業で課されている量以上の勉強をし、自分自身で語学力を磨かなくてはなりません。

東松山図書館４階に「多読ライブラリー」というところがあります。英語の様々な文学作品が学習者向けに短縮版になった本が多数並んでいます。中国語で書かれた読み物も４階に並んでいます。これら短い読み物を「よし、一日１冊読むぞ」と決めて、継続的に読みましょう。語学学習で欠かせないのが文法です。文法は文の組み立て方の決まりです。英文法でも中国語文法でも、書店に行って自分が最初から終わりまで読み終えることができそうな文法書を見つけて、それで徹底的に文法を身に付けてください。（文法書をひたすらノートに写すだけでも効果はあります）。文法を身に付けたら、毎日少しずつでも文章を書いてみましょう。

（小池剛史／英米文学科）


さ、あ
べんきょう
を
はじめ
よう
*iokins

◆コラム◆
長距離通学を楽しもう

大東文化大学は東松山と板橋にキャンパスを置いていますので、毎日長い時間電車に揺られているという方も多いのではないでしょうか。

個人的な話ですが、高校も大学も自転車で通学していた私は、電車やバスの定期券を持つことにとても憧れがありました。寒暖晴雨に関係なく必死で自転車をこぎながら、定期券組が優雅に本を読んだり会話を楽しんだりしている様子を想像していたわけです。そんなことから、社会人になって人生初の定期券を手に電車通勤をはじめた時には、かなりの充実感がありました。わずか15分足らずの乗車時間でしたが、本を読んだり、景色を眺めたり。それまでにない独特の時間をはじめて確保したのです。

とはいえ、朝晩の通学では、凄まじい混雑に遭遇したり、しばしば遅延する電車にそわそわしたりすることも再三でしょう。しかし、何年間か続く長距離通学なら、その間になにか身になることをしてみたいようにも思います。ゲームや漫画とは少し距離を置いて、充実した時間にして下さい。変わった提案はできませんが、いくつか例を。

新聞を読む

通学時間に読書がぴったりなことは言うまでもありませんが、なかでも相性がいいと思うのは新聞です。政治、経済、芸術、科学、生活、芸能など内容が多岐にわたり、自然に関心が多方向に広がっていきます。近頃ではデジタル版が充実していますので、立ったままでも読めます。自宅で新聞を購読していれば、デジタル版は割安で購入できることが多いようです。

本を読む

鞄の中にはいつも何か本を入れておきます。文庫本や新書なら買ってしまえば入れっぱなしでも気になりません。２冊入れておくと、どちらかに飽きた時でも目先が変わって読み進められます。通学読書で是非本棚の隙間を埋めていってください。

勉強する

大学で課せられている課題をこなすのもいいですね。さらに、語学や各種の資格取得のための勉強時間に充てるのもいいでしょう。通学時間を勉強時間と定めて、腰を入れて勉強したら、かなりの成果を得られるに違いありません。

眠る

敢えて提案されなくてもそうしている、という声が聞こえそうです。前日、多少の無理をしても、通学時間に眠れると思えば少し安心です。座れないと難しいのと、乗り越しに注意が必要であることはいうまでもありません。

景色を見る

日々を慌ただしく暮らしていると、ぼんやりと景色を眺める時間は意外にないものです。四

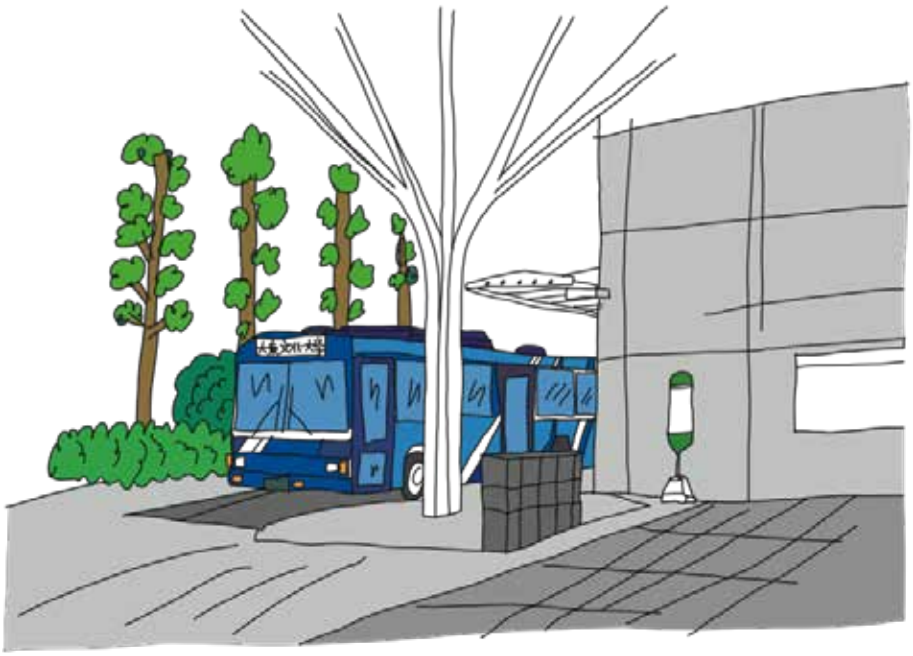
季のうつろいや街の変化を眺めながら、その日の段取りを頭のなかで描いたり、書き出したりしてみると、行動が整理できて充実した一日が過ごせます。

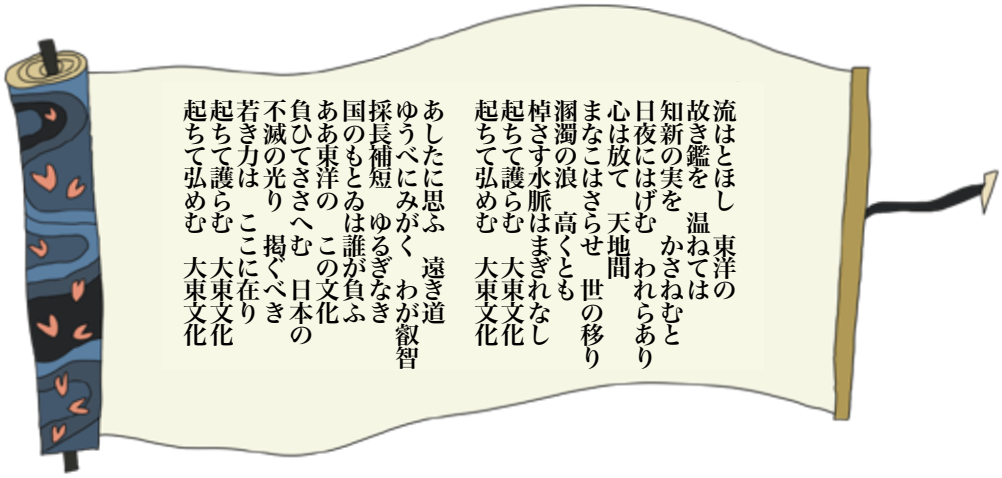
車内でもいろいろな広告を眺めたり、ヒューマンウォッチングしたりできますね。乗降客の身だしなみに季節を感じることも多いはずです。ただし、自分が見られていることも忘れずに。

たまに下車する

同じ経路を何年間か往復するわけですから、たまには途中の駅で下車してみるのもお勧めです。いつも遠くから眺めていた景色のなかに自分を置いてみると、車窓からの風景が違って見えてきます。

（髙橋利郎／書道学科）





流はとほし　東洋の
故き鑑を　温ねては
知新の実を　かさねむと
日夜にはげむ　われらあり
心は放て　天地間
まなこはさらせ　世の移り
溷濁の浪　高くとも
棹さす水脈はまぎれなし
起ちて護らむ　大東文化
起ちて弘めむ　大東文化

あしたに思ふ　遠き道
ゆうべにみがく　わが叡智
採長補短　ゆるぎなき
国のもとゐは誰が負ふ
ああ東洋の　この文化
負ひてささへむ　日本の
不滅の光り　掲ぐべき
若き力は　ここに在り
起ちて護らむ　大東文化
起ちて弘めむ　大東文化

（藤尾健剛／日本文学科）

敬語の使い方

① ×「ご苦労様でした」→ ○「お疲れ様でした」
「ご苦労様」は、目上が目下をねぎらう言葉で、目上の人に使うのは失礼です。

② ×「お元気でございますか」→ ○「お元気でいらっしゃいますか」
「ございます」は「ある」の丁寧語。「いる」の尊敬語「いらっしゃる」が適切。

③ ×「了解しました」→ ○「かしこまりました」・「承知しました」
「了解しました」は、軍隊・警察用語。

④ ×「ちょっとおたずねしたいのですが」→ ○「少々お伺いしたいのですが」
よりあらたまった表現の「少々」を使い、「尋ねる」の謙譲語「伺う」を用います。

⑤ ×「何でも申し出てください」→ ○「何でもおっしゃってください」
「申す」は自分が言う場合の謙譲語で、相手が言う場合に使うのは失礼です。

⑥ ×「ご持参ください」→ ○「お持ちください」
「持参」は自分の行為に使う語で、相手の行為に使うのは失礼です。

⑦ ×「いま行きます」→ ○「ただいま参ります」
「ただいま」はよりあらたまった語。「参る」は、「行く」の謙譲語。

⑧ ×「ご承知のように」→ ○「ご存じのように」
「承知」は自分が「知っている」場合に使う語で、相手に使うのは失礼です。

⑨ ×「よく知っております」→ ○「よく存じて（存じ上げて）おります」
「存じる」は「知る」の謙譲語。人物を知っている場合は、「存じ上げる」。

⑩ ×「すみませんが」→ ○「申し訳ありませんが」・「恐れ入りますが」
「すみません」は気軽に使われるが、あらたまった席にはふさわしくありません。

⑪ ×「何をお召し上がりになりますか」→ ○「何を召し上がりますか」
「召し上がる」は、「食べる」の尊敬語で、それだけで十分敬意を伝えられます。

⑫ ×「何にいたしますか」→ ○「何になさいますか」
「いたす」は「する」の謙譲語で、自分について言う語。尊敬語は「なさる」。

・以上、乱筆悪文のため、お見苦しい点も多いかと存じますが、ご容赦の程お願い申し上げます

〔後日の約束と返信の請求など〕

・なお、恐縮ながら近日中に御来訪を賜りたく、よろしくお願い申し上げます

・なお、お手数ながら折り返し御返信を賜りたく、よろしくお願い申し上げます

○宛名につける敬称

様　最も一般的なもの。目上・同輩・目下の別、男女の別なく用います。

殿　公用文、商業文で用います。

先生　自分が指導を受けた人をはじめ、教師、医師、議員その他社会的に指導者の立場にある人に対して、敬意をこめて用います。

御中　会社、官庁、団体などにあてる場合に用います。「大東文化大学御中」など。

各位　同文を多数の人にあてる場合に、一々の個人名に代えて、「会員各位」などと用います。「各位」の下には、様、殿などは不要です。

電子メールの書き方

・件名は、必ず入れ、用件の内容が具体的に分かるように、簡潔的確に書きます。件名のないメールは、相手に不審がられます。

・冒頭に相手の名前を書きます。手紙の頭語・前文・結語などは、電子メールでは不要です。

・初めてメールを送る場合は、自分の名前と自己紹介から始めます。どのような手段で相手のアドレスを知ったかも書いておくべきでしょう。

・メール本文が読みやすいように工夫すべきです。一行があまり長くなりすぎないよう改行を多くしたり、一行空けて書くなどするとよいでしょう。

・返信メールはできるだけ早く。返事に手間取るなら、受信確認だけでも伝えたいものです。

・同じメールを複数の人に送信する場合、メールアドレスの流出に注意すべきです。メールを複数の人に送る方法には、宛先欄に複数のアドレスを入力する方法と、ＣＣ（カーボンコピー）機能かＢＣＣ（ブラインドカーボンコピー）機能を使う方法があります。ＢＣＣメールは、受信者側に他の人のメールアドレスが見えないようになっているので、情報の流出を防ぐことができます。

・メールを使用するのが適当でない場合があるので注意を要します。慶弔の連絡をメールで送信するのは、特に相手がそれほど親しくない場合は避けるべきです。年賀状の返事をメールで済ますのも失礼に当たります。守秘義務を要するような重要な情報をメールで伝達するのは危険です。

年末　歳末の候、年の瀬もいよいよ押し詰まってまいりました

○安否の挨拶

〔相手側〕

・その後いかがお過ごしでしょうか、お伺い申し上げます
・先生にはますますお元気でご活躍のことと推察申し上げます
・皆様お変わりなくお過ごしのことと拝察申し上げます
・御一同様いよいよ御多幸の由、お喜び申し上げます

〔自分側〕

・おかげさまで私どもも元気に暮らしております
・なお、当方相変わらず元気にしておりますので、他事ながらご安心ください

○結びの挨拶

・まずは、遅ればせながらご報告申し上げます
・右、略儀ながら書中をもってご挨拶申し上げます
・右、取り急ぎご報告まで

〔自愛・繁栄を祈る挨拶〕

・気候不順の折から御自愛くださるようお念じ申し上げます
・時節柄一層御自愛御発展の程お祈りいたします
・末筆ながら皆様の御清祥をお念じ申し上げます
・末筆ながら貴家の御多幸をお祈り申し上げます

〔乱筆・悪文のお詫び〕

・以上、取り急ぎの乱筆恐縮に存じますが、よろしく御判読の程お願い申し上げます

後付	日付	二〇一六年九月二十二日
	差出人の署名	大東文華
	宛名・敬称	青桐久様
	脇付	侍史
副文	起辞	追伸 次に御上京の節は、ぜひ拙宅へお越しください。
	家族一同歓迎申し上げます	

○頭語と結語

《頭語》拝啓・謹啓（丁寧）・拝復（返信）・復啓（返信）・前略（はがき）

《結語》敬具・敬白（丁寧）・かしこ（女性のみ）・早々（はがき）・不一（はがき）

○時候の挨拶

一月　厳寒の候・酷寒のみぎり・寒気ことのほか厳しい毎日が続いております

二月　余寒の候・晩冬のみぎり・梅のつぼみもそろそろ膨らみ始めました

三月　早春の候・軽暖のみぎり・寒さもだいぶゆるんだように思われます

四月　春暖の候・陽春のみぎり・春たけなわの季節となりました

五月　新緑の候・薫風のみぎり・若葉の季節となりました

六月　初夏の候・向暑のみぎり・梅雨空のうっとうしいころとなりました

七月　盛夏の候・炎暑のみぎり・連日厳しい暑さが続いております

八月　残暑の候・暮夏のみぎり・立秋とは申せ厳しい暑さが続いております

九月　秋涼の候・新秋のみぎり・朝夕はようやくしのぎやすくなりました

十月　秋冷の候・清秋のみぎり・灯火親しむ好季節となりました

十一月　晩秋の候・向寒のみぎり・朝夕はだいぶ冷え込むようになりました

十二月　初冬の候・寒冷のみぎり・寒さもひとしお身にしみるころとなりました

正月　新春の候・希望に満ちた新年を迎え・気分も一新いたしました

話し方・書き方

手紙の書き方

最近は電子メールでの通信が多くなっていますが、改まった用件では手紙を書くことが要求されます。手紙には、伝統的な約束事がいくつかあります。それをマスターして、常識を欠いた人、礼儀をわきまえない人と思われないようにしたいものです。

手紙の組み立て

前文	頭語	拝啓
	時候の挨拶	台風も事なく過ぎ、心地よい秋空の広がる季節となりました。
	安否の挨拶（相手方）	その後ごぶさたいたしておりますが、お健やかにお暮らしのご様子、お喜び申し上げます。
	安否の挨拶（自分方）	おかげさまで、小生も勉学やクラブ活動に励んでおりますので、他事ながらご休心ください。
主文	起辞	さて、
	本文	夏期休暇中はたいへんお世話になり、ありがとうございました。卒業論文の構想を練るために、騒々しい都会を離れて、静かな環境で読書したり、考えをまとめたりしたかったのですが、海辺に近い尊宅ほど申し分のない場所はなかったと思います。おかげさまで、論文にも見通しがついて参りました。ご家族の皆様にもよろしくお伝えください。
末文	結びの挨拶	右、略儀ながら、書中をもって御礼申し上げます。
	結語	敬具

大東文化大学文学部
新入生サブテキスト
文学部へようこそ

平成28年４月１日　第１版発行
平成29年４月１日　第２版発行

サブテキスト制作プロジェクト
日本文学科・中国文学科・英米文学科・教育学科・書道学科（共同制作）

DAITO BUNKA
UNIVERSITY